

授業科目名：日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇佐見 正史
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幕末・明治維新期から太平洋戦争の敗戦を経て1950年代前半の復興期に至る歴史を学修し、日本の近代化の特質について理解を深めることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幕末・明治維新期から太平洋戦争の敗戦を経て1950年代前半の復興期に至る歴史について、14のテーマ（「授業計画」の第2～15回）を取り上げて講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに（授業の計画と概要、授業の進め方についての説明）</p> <p>第2回：日本の開国と列強のアジア進出</p> <p>第3回：東アジア国際秩序と近代日本</p> <p>第4回：日清戦争の時代</p> <p>第5回：日露戦争の時代</p> <p>第6回：日本の産業革命</p> <p>第7回：第1次世界大戦と日本</p> <p>第8回：第1次世界大戦後の経済・社会の変化</p> <p>第9回：昭和恐慌と景気対策</p> <p>第10回：満州事変から日中戦争へ</p> <p>第11回：第2次世界大戦の勃発と日本</p> <p>第12回：太平洋戦争の開戦</p> <p>第13回：総力戦体制下の社会と国民生活</p> <p>第14回：敗戦と占領政策</p> <p>第15回：戦後改革から経済復興へ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『岩波講座日本歴史』15～18巻（岩波書店）</p>			

学生に対する評価

課題のレポート (50点)、定期試験 (50点)

授業科目名：外国史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 直志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高校で学んだ知識を確認・活用しながら、新しい知識や重要な論点を積み上げていくことを心掛け、最終的には①「歴史＝暗記物」という固定観念から脱却し、現状分析の助けにもなる「考える歴史」への橋渡しとしたい。この他に、以下の3点に関連した能力の涵養を意識した講義としたい。②経済学の基礎的諸分野について理解し、経済学的思考によって経済現象の本質を理解できる能力を持つ。③世界や日本の経済・社会への洞察力を持ち、地域社会の持続的発展に貢献できる能力を持つ。④人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を習得し、外国語や外国文化を理解する能力を持つ。（本講義は経済学科DP1. および3. と関連している。）</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大学に入学する以前の歴史や社会科では、経済問題に限っても一国単位での分析・理解が主流であったと思われる。これに対して、本講義では「世界主要国の歴史の寄せ集め」というより、「（経済グローバル化を先導した）欧米の経済動向と世界経済全体との関連」を追求することに軸足を置く。つまり、一国単位の分析を主とした縦軸（時間軸）と同時代における国際関係の理解をメインにした横軸（空間軸）の両方を交えた立体的な世界史像を提示することを重視する。そのため、産業革命以降、経済の先進地域となった欧米地域以外のトピックス（現在の新興国・途上国に該当する国・地域）についても、必要に応じて適宜言及する。受講生にとっては、新たな歴史像との出会いの場となると思われるが、これを機に機械的な暗記から脱却し、主体的な分析視点をひとつでも多く見つけて欲しい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（なぜ歴史を学ぶのか？）</p> <p>第2回：グローバル化の起源 ①（大遠征事業・探検事業）</p> <p>第3回：グローバル化の起源 ②（商業・生活革命）</p> <p>第4回：グローバル化の起源 ③（工業の進展）</p> <p>第5回：近世から近代へ ①興隆するアジアと戦乱のヨーロッパ</p> <p>第6回：近世から近代へ ②植民地化が進んだラテンアメリカとアフリカ</p> <p>第7回：近世から近代へ ③市民革命と産業革命を育んだ土壌</p> <p>第8回：近代から現代へ ①産業革命を経た経済覇権国の登場</p>			

第9回：近代から現代へ ②ラテンアメリカの独立とアジア・アフリカの植民地化
第10回：近代から現代へ ③キャッチアップ型工業化に邁進する日本と欧米列強
第11回：近代から現代へ ④二度に及ぶ世界大戦と世界恐慌が及ぼした影響
第12回：戦後の世界 ①東西冷戦と南北問題
第13回：戦後の世界 ②陰りを見せるアメリカと台頭する中国
第14回：戦後の世界 ③資本主義と民主主義の行方
第15回：まとめ（欧米主導で進んだ経済グローバル化の帰結）

定期試験

テキスト

教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

参考書として、以下の文献を推奨する。

玉木俊明（2015）『ヨーロッパ覇権史』ちくま新書。

河崎信樹・村上衛・山本千映（2020）『グローバル経済の歴史』有斐閣アルマ。

金井雄一・中西聡・福澤直樹（2020）『世界経済の歴史（第2版）』名古屋大学出版会。

また、参照用の検索ツールとして、以下のURLを推奨する。

（世界史の窓） <http://www.y-history.net>

学生に対する評価

課題レポート（20%）＋期末試験（80%）

授業科目名： 地理学（地誌を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 準一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中等教育における教科教育学の学習内容を踏まえ、地理学の見方や考え方に関わる概念や知識、技能を学びます。自然地理学（地形や気候、土壌など）と人文地理学（農牧業や鉱工業、村落と都市、生活と文化など）の観点から、地域の諸相を捉えていきます。また、地誌的な観点から自然と人文との関わりを捉えて、地域のもつ課題を考察していきます。到達目標は、このような地理学や地誌の知見を身に付け、教科教育学における専門的な知識と実践的な指導力に発展させることです。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、学としての地理学の見方や考え方と教科教育学との関係を捉え、次いで、近代地理学の背景にある18世紀の実験科学観を踏まえ、地理学の計量革命から人文主義地理学に至る流れを概観します。また、自然地理学と人文地理学との関係を捉え、地誌と景観、風土論、文明の生態史観などを論点としてとりあげ、日本の地域と世界の地域を地誌的な観点から考察していきます。このような地理学や地誌の知見を通して、改めて教科教育学のあり方を探っていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地理学の見方や考え方と教科教育学</p> <p>第2回：近代地理学の潮流と18世紀の実験科学論</p> <p>第3回：地理学と計量革命、人文主義地理学</p> <p>第4回：自然地理学と自然誌、博物誌</p> <p>第5回：人文地理学と環境論、風土論、文明の生態史観</p> <p>第6回：地誌と景観、民俗学と考現学</p> <p>第7回：西日本の地域、島嶼地域</p> <p>第8回：中央日本の地域、山岳・高原地域</p> <p>第9回：東日本の地域、流水海域</p> <p>第10回：湿潤アジアと乾燥アジア、照葉樹林帯</p> <p>第11回：地中海世界と西欧、オリエント</p> <p>第12回：サバンナと中南アフリカ、リフトバレー</p> <p>第13回：ロシアと東欧、ユーラシア</p> <p>第14回：新大陸とオセアニア、両極地域</p> <p>第15回：地理学と地誌からみた教科教育学</p>			

適宜、小テスト有

テキスト

水野一晴（2016）『人間の営みがわかる地理学入門』ベレ出版

参考書・参考資料等

適宜、指示します。

学生に対する評価

課題レポート（40%）

上記以外の試験・平常点評価（60%）

課題レポート：課題レポートは、問題設定や考察のまとめ（問題設定の問題意識は明確か、考察はわかりやすく整理されているか。一次文献を踏まえるなど引用作法が適切か。）

上記以外の試験・平常点評価、小テスト：授業の参加度（気づき・感想は学び得たことが整理されているか。）小テスト（知識・理解は定着しているか。）

授業科目名：政治学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 勝田 美穂 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>若い人たちの間で政治離れが進んでいると言われている。しかし、政治は私たちの生活と無関係には存在しない。この講義では政治の仕組みについて学ぶことを通じて、現代社会に発生する問題と自分との係わりについて考え、それを解決するヒントを得ることを目的とする。</p> <p>社会的な問題について自分なりの考えを持てるようにする。自らが社会に参加し問題を解決する主体であるという自覚を持てるようになることを目標とする。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連では、経済学部では、DP1「人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を修得し、外国語や外国文化を理解する能力を持つ」こと、経営学部では、DP1「人文科学、社会科学、自然科学、情報リテラシー、および論理的な文章表現力を身に付けている」ことがあげられる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に講義形式で行うが、毎回質疑応答の時間がある。回によってはワークシートを作成し、内容を発表する機会がある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション、国の役割1 政治の機能</p> <p>第2回 国の役割2 市場の失敗、政府の失敗</p> <p>第3回 国の役割3 福祉国家</p> <p>第4回 国の役割4 市民社会と市民国家</p> <p>第5回 制度1 議会</p> <p>第6回 制度2 内閣</p> <p>第7回 制度3 政党</p> <p>第8回 制度4 選挙</p> <p>第9回 制度5 地方制度</p> <p>第10回 非制度因子1 圧力団体</p> <p>第11回 非制度因子2 官僚</p> <p>第12回 非制度因子3 マスメディア</p> <p>第13回 非制度因子4 司法</p> <p>第14回 非制度因子5 国際関係</p>			

第15回 現代社会と政治の働き

定期試験

テキスト

教科書はないが、参考書として勧めるものを入手することを推奨する
その他の参考文献については適宜授業のなかで紹介する

参考書・参考資料等

読みやすい本

北山俊哉・久米郁男・馬淵勝『はじめて出会う政治学 第三版』有斐閣、2010年

ISBN-10 : 4641123683

公務員試験を受けたい人のために

久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝『政治学 補訂版』有斐閣、2011年

ISBN-10 : 4641053774

学生に対する評価

期末試験の成績（70%）、質疑応答の内容など平常の講義を通じた評価（30%）を通じて、到達目標に応じた習熟度を測ります。

授業科目名：法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水野 和佳奈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>私たちの生活と法律は密接に関わっている。学生生活における教科書の購入、アルバイトの開始、運転免許の取得など、いずれも法律行為の観点から説明することができる。また、地域経済や地域行政（地方自治）でも企業や行政機関による法的活動が重要な役割を果たしている。本講義ではこうした身近な法現象にかかわる基礎知識の習得を目指す。</p> <p>本講義では以下の2点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活に関わる法律の基本的な仕組みを理解する。 2. 地域経済や地域社会（行政、福祉）に関する法律問題、法律現象について自身で考えられるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活にかかわりの深い法律に関する具体的事例の説明を通じて、基本的な法律の仕組みと考え方を身に着け、地域の経済や社会（地方行政や地方自治、社会福祉）を法的な観点から分析し、理解するための素養を身に着けることを目指す。</p> <p>講義は原則として講義方式で行われるが、随時小テストや小レポート、グループワークを行い、受講生の理解を確認しながら内容を進める。なお本講義では、Teams（ICT、学習支援システム）を利用して、講義資料を配布・参照する。また、小テストや調査演習等の課題もTeamsを利用して出題し、評価し、記録する。Teams上に記録された課題や評価は受講生自身でいつでも確認でき、また、教員と受講生は、Teamsで講義内容等に関する質疑（文字でのやりとり、通話等）をすることもできる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 講義の進め方、学習方法、用語の説明、法の一般原則</p> <p>第2回：契約の成立（1）意思表示、法律行為と事実行為</p> <p>第3回：契約の成立（2）契約の効力 無効と取り消し</p> <p>第4回：不法行為 民事責任と刑事責任</p> <p>第5回：不法行為 故意と過失</p> <p>第6回：不法行為 損害の発生、因果関係</p> <p>第7回：不法行為 違法性阻却事由</p> <p>第8回：民法 家族法 婚姻</p>			

第9回：民法・刑法 民法と刑法の違い

第10回：民法 家族法 親子関係

第11回：刑法 罪刑法定主義

第12回：交通法規 さまざまな責任（行政、民事、刑事）

第13回：講義の振り返り 講義内容の重要な点を再度説明

第14回：小テスト、総括 小テストの実施と講義内容のまとめ

第15回：定期試験（予定）および解説 小テストの解説

定期試験

テキスト

教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

講義の理解を助ける参考書として、池田真朗編『プレステップ 法学〈第4版〉』（弘文堂、2020年）を推奨。

学生に対する評価

「日常生活に関わる法律の基本的な仕組みを理解できているか」「地域経済や地域社会（行政、福祉）に関する法律問題、法律現象を自身で説明できるか」を評価基準として、期末試験 50%、経常課題・小テスト40%、小レポート・グループワーク 10%で評価する。

授業科目名： 国際政治論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 正登
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ統合の歴史を理解し、ヨーロッパから世界を見る視点を習得する。			
<p>授業の概要；</p> <p>現代のヨーロッパは、EU（ヨーロッパ連合）を中心として統合が進む一方で、民族／エスニック紛争や地域紛争、さらには非ヨーロッパ地域からの移民によるとされるテロが生じている。そこでこの講義では、（1）ヨーロッパ統合の歴史を、イギリスの外交政策を中心に大陸諸国との相違点を分析し、（2）統合の現段階を、経済通貨同盟（ユーロの発行）や共通外交安全保障政策の展開、イギリスのEU離脱などを概観し、合わせて、（3）世界の中でのヨーロッパの役割を検討する。</p>			
<p>授業計画；</p> <p>第1回： 冷戦とアメリカのヨーロッパ政策</p> <p>第2回： ヨーロッパ統合とイギリスの立場</p> <p>第3回： シューマン・プラン、プレヴァン・プランとイギリス</p> <p>第4回： 西欧連合(WEU)の成立</p> <p>第5回： 欧州経済共同体(EEC)の成立</p> <p>第6回： 欧州共同体(EC)の機構</p> <p>第7回： ハーグ欧州首脳会議</p> <p>第8回： 単一欧州議定書の調印</p> <p>第9回： マーストリヒト条約・経済通貨同盟</p> <p>第10回： マーストリヒト条約・共通外交安全保障政策</p> <p>第11回： ユーロ発行</p> <p>第12回： 共通防衛政策とNATO</p> <p>第13回： EUの拡大</p> <p>第14回： EUの深化</p> <p>第15回： ブレグジット（イギリスのEU離脱）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用せず。講義中に要約、資料を提示する。</p>			

参考書・参考資料等

講義中にその都度指摘する。

学生に対する評価

レポート課題（前半終了時；30%）

定期試験（筆記試験；60%）

講義時のコメントカード等（10%）

授業科目名：経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野崎 道哉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代経済の基礎を理解し、日本経済、世界経済の仕組みの基礎を理解することを目的とする。到達目標は、①現代経済の仕組みを理解すること、②日本経済、世界経済の仕組みを基本的に理解することである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代経済の基礎を紹介し、日本経済、世界経済の仕組みの基礎を理解することを授業のねらいとする。講義と問題演習を併用する。小テストを2回実施する。講義の中で質疑応答を行い、双方向の授業を心掛ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：経済学とは何か 第2回：なぜ日本経済は長期間停滞しているのか 第3回：国の経済規模や所得レベルはどうやって測るのか？ 第4回：なぜ所得格差が広がっているのか？（1）国内の所得格差の変化 第5回：なぜ所得格差が広がっているのか？（2）所得格差拡大の原因 第6回：第1回 小テスト、フィードバック 第7回：経済の均衡はどうやって決まるのか？ 第8回：デフレやインフレはなぜよくないのか？（1）デフレが経済に及ぼす影響 第9回：デフレやインフレはなぜよくないのか？（2）マクロ経済学のツール 第10回：日本政府は財政支出を増やすべきか？（1）日本の公共投資・政府消費の推移 第11回：日本政府は財政支出を増やすべきか？（2）財政政策はなぜ景気を改善できるのか 第12回：経済のグローバル化は何をもたらしたのか？（1）グローバル化の拡大と停滞 第13回：経済のグローバル化は何をもたらしたのか？（2）グローバル化は経済に恩恵をもたらす 第14回：講義の総括、復習 第15回：第2回 小テスト、フィードバック</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>戸堂康之著『経済学って何だろう』新世社 ISBN978-4-88384-376-3</p>			

参考書・参考資料等

授業資料を配布する。参考文献は講義中に指示する。

学生に対する評価

小テスト30%，定期試験70%により総合的に評価する。

授業科目名： 経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 勉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 日本経済や国際経済に関する基礎知識を身に着けることを目標にする。			
授業の概要 この科目では、現代経済の基本的な仕組みや、様々な経済的問題の原因と解決策について考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：日本経済の歩み(1)戦後から高度成長期まで 第3回：日本経済の歩み(2)オイルショックから現在まで 第4回：市場の仕組みと物価の動き 第5回：経済の仕組みと家計 第6回：私たちの生活と労働 第7回：資本主義と企業 第8回：貨幣と金融 第9回：財政の役割 第10回：景気循環と政府の政策 第11回：アベノミクスを振り返る 第12回：社会保障と共生社会 第13回：国際経済と日本 第14回：持続可能な社会のために 第15回：定期試験、及び、試験内容の解説 定期試験 実施する			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等 授業中にプリントを配布する			
学生に対する評価 定期試験100%			

授業科目名： 社会保障論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高木 博史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 社会保障の概念及び理念、制度の現状と課題について基礎的な知識の修得と理解をめざす			
授業の概要 わが国における社会保障制度の現状と課題について時事的問題も含めた解説により、社会保障に関する基礎的な知識を習得し、社会保障についての理解を深める。			
授業計画 第1回：現代社会における社会保障制度の現状 第2回：社会保障の概念と範囲 第3回：社会保障の理念と対象 第4回：社会保障の財源 第5回：社会保障給付費の動向と特徴 第6回：社会保険の概念と仕組み 第7回：社会扶助の概念と仕組み 第8回：公的保険制度と民間保険制度 第9回：年金保険制度の現状と課題 第10回：医療保険制度の現状と課題 第11回：介護保険制度の現状と課題 第12回：労働保険制度の現状と課題 第13回：社会扶助の現状と課題 第14回：諸外国における社会保障制度 第15回：まとめ（現代日本における社会保障の現状と課題）			
定期試験			
テキスト 福祉臨床シリーズ編集委員会編 阿部裕二・熊沢由美 責任編集『社会保障』弘文堂 2023年			
参考書・参考資料等 社会保障に関する理解を深める関連文献等については、必要に応じて授業中に指示する。			
学生に対する評価 授業終了後のリアクションペーパー（15%）、			

期末試験 (85%)

授業科目名： 社会保障論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高木 博史 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 社会保障論Ⅰの学びに基づき、社会保障の概念及び理念、制度の現状と課題について発展的な知識の修得と理解をめざす。			
授業の概要 社会保障論Ⅰの学びに基づき、わが国における社会保障制度の現状と課題について時事的問題も含めた解説により、社会保障に関する発展的な知識を習得し、社会保障についてさらなる理解をめざす。			
授業計画 第1回：少子高齢化社会と社会保障 第2回：日本における社会保障の形成と展開 第3回：欧米における社会保障の形成と展開 第4回：社会保障における選別的給付と普遍的給付 第5回：公的年金制度の今日的諸課題 第6回：高齢者医療制度と医療保障 第7回：介護の「社会化」と介護保険の創設 第8回：労働者災害補償保険制度の今日的諸課題 第9回：社会手当制度の課題 第10回：公的扶助制度の今日的諸課題 第11回：社会保障制度改革の視点 第12回：2025年問題と2040年問題 第13回：社会保障の国際比較 第14回：社会保障と社会福祉 第15回：まとめ（持続可能な社会保障制度とは）			
定期試験			
テキスト 福祉臨床シリーズ編集委員会編 阿部裕二・熊沢由美 責任編集『社会保障』弘文堂 2023年			
参考書・参考資料等 社会保障に関する理解を深める関連文献等については、必要に応じて授業中に指示する。			

学生に対する評価

授業終了後のリアクションペーパー（15%）、

期末試験（85%）

授業科目名：社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内 治彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学部、経営学部のDPにある、社会科学の基礎的知識を身に着けることがこの講義の到達目標となる。</p> <p>具体的には、社会学分野として、次の各項目の理解が不可欠となる。</p> <p>合計特殊出生率を計算できる。</p> <p>人口統計の基礎がわかる。</p> <p>戦後日本の出生率の変化を説明できる。</p> <p>社会階層の平等性について考えを持つ。ジニ係数を計算できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>おもに、PDFに作成した教材をスクリーンに映して講義するが、途中、計算問題があり、小テストを行いつつ、計算方法を実習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入 社会学の対象について</p> <p>第2回：世界の人口問題</p> <p>第3回：戦後日本の少子化の経緯</p> <p>第4回：合計特殊出生率について</p> <p>第5回：人口減少社会日本</p> <p>第6回：自分の町の人口レポートをまとめる</p> <p>第7回：社会階層について</p> <p>第8回：身分、階級、社会階層</p> <p>第9回：総中流社会の形成</p> <p>第10回：格差社会問題</p> <p>第11回：ジニ係数について学ぶ</p> <p>第12回：ジニ係数を計算してみる</p> <p>第13回ジニ係数から考える世界の格差：</p> <p>第14回：教育と階層との関係</p> <p>第15回：まとめ 希望格差社会を超えて 学んだ内容全体を復習し、今日の社会的課題について総括的理解を高める</p>			

定期試験
テキスト 講義時に指示する。
参考書・参考資料等 講義時に指示する。
学生に対する評価 毎回の小テスト・レポートが50%、試験50%の配分である。授業の各回では、DPの到達目標に示した、人口統計にかかわる基礎的な用語の理解、今日の人口の状況、合計特殊出生率の計算方法、ジニ係数の計算方法などについて、ミニレポートないし小テストが実施される。学年末の試験はいわばそれらの総括であり、上記の各項目について、大きな論述問題か、具体的な計算問題が出題される。

授業科目名： 社会政策	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤井えりの
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 社会政策に関する基礎的な知識と関連する諸制度に関する理解			
授業の概要 社会政策にかかわって生じている具体的な事象を含めた解説によって、基礎的な理論と制度に関する知識を習得し、現代社会の諸問題について思考する視点を養う			
授業計画 第1回：社会政策とは 第2回：福祉国家の成立と展開 第3回：社会政策の経済理論 第4回：所得格差の現状 第5回：労働政策の役割・労働市場 第6回：労働にかかわる制度と諸問題① 失業と諸制度 第7回：労働にかかわる制度と諸問題② 労働条件と諸制度 第8回：労働にかかわる制度と諸問題③ 労働災害と諸制度 第9回：労働にかかわる制度と諸問題④ 第10回：社会保障制度の役割・社会保障財政 第11回：社会保障にかかわる制度と諸問題① 貧困と公的扶助 第12回：社会保障にかかわる制度と諸問題② 高齢者の暮らしと諸制度 第13回：社会保障にかかわる制度と諸問題③ 子ども・子育てと諸制度 第14回：社会保障にかかわる制度と諸問題④ 第15回：まとめ：現代社会と社会政策			
定期試験			
テキスト ・駒村康平 ほか(2015)『社会政策－福祉と労働の経済学』有斐閣。			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 期末試験（60％）、レポート等（40％）			

授業科目名： 地域経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 菊本 舞
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 地域の諸特徴を理解し、身近な地域の経済・社会の現状を理解し、課題を把握し分析することが出来るようになる。			
授業の概要 「地域の不均等発展」という地域経済学の命題を出発点として、特に戦後日本の地域経済・地域社会の変化を人口構造・産業構造の変化から把握する。さらに、高度経済成長期からグローバル経済下における地域経済の変容を国土政策と地域開発の経緯をたどりながら学び、自律的な地域経済および地域政策のあり方を展望する。			
授業計画 第1回：イントロダクションー地域経済学の課題 第2回：地域経済学の課題 第3回：地域経済構造（1）人口動態から把握する 第4回：地域経済構造（2）産業構造の変化から把握する 第5回：都市の概念的把握 第6回：農村の概念的把握 第7回：戦後日本の地域開発と国土政策（1）全国総合開発計画にみる国土政策・地域政策 第8回：戦後日本の地域開発と国土政策（2）地域開発の理念と現実 第9回：戦後日本の地域開発と国土政策（3）地域振興策としての意義と課題 第10回：東京一極集中と地方の人口減少 第11回：地方都市における地域経済 第12回：農山村の空洞化問題と田園回帰の傾向 第13回：地域内経済循環と地域内再投資 第14回：持続可能な地域政策の可能性 第15回：まとめー地域経済の展望 定期試験			
テキスト テキストは特に指定しない。授業内において資料を提示する。			
参考書・参考資料等			

岡田知弘他著（2016）『国際化時代の地域経済学（第4版）』有斐閣
岡田知弘（2020）『地域づくりの経済学入門（増補改訂版）』自治体研究社
佐藤泰裕（2023）『都市・地域経済学への招待状（新版）』有斐閣
中村剛次郎（2008）『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣
松永桂子（2023）『地域経済のリデザイン』学芸出版社
山田浩之他編著（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

学生に対する評価

期末試験（70%）、各回の授業終了時に提出する小レポート（30%）

授業科目名： 金融システム論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 俊幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 金融論の基礎的理論を理解し、経済現象を分析できる能力を持つことにある。言い換えれば、 ①金融の一般的な理論を習得すること、②それを基礎としつつ、わが国の金融の歴史と現状について理解できること			
授業の概要 まず金融の基礎的理論を明らかにし、次いでわが国の金融制度および金融政策について分析していきます。			
授業計画 第1回：貨幣と通貨(1)貨幣の本質と機能 第2回：貨幣と通貨(2)通貨制度の変遷 第3回：貸付資本～利子の本質と利率 第4回：銀行の業務 第5回：信用創造の仕組みと限界 第6回：短期金融市場と金融政策 第7回：金融制度（信用制度）の役割と限界 第8回：わが国の金融システムの形成の歴史と国際的特徴 第9回：わが国の金融システムの変容（1）現実資本の停滞と貨幣資本の過剰 第10回：わが国の金融システムの変容（2）金融再編 第11回：わが国の金融システムの変容（3）地域・中小企業金融 第12回：わが国の非伝統的金融政策（1）基本的性格（伝統的な金融政策との違い） 第13回：わが国の非伝統的金融政策（2）非伝統的金融政策の変遷 第14回：わが国の非伝統的金融政策（3）効果と限界 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 『コミュニティ金融と地域通貨』（新評論）等。			
参考書・参考資料等 授業中に統計データや資料等を適宜配布します。			

学生に対する評価

定期試験（対面での実施もしくはそれに代わるレポートの提出）、質問・意見・小テスト等により総合的に評価します。定期試験（対面での実施もしくはそれに代わるレポートの提出）80点、質問・意見・小テスト等20点、の割合を基本とします。定期試験等の出題内容・その採点につきましては、到達目標①～②に基づいて行います。

授業科目名： 財政システム論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤井えりの
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標			
財政の理論と制度に関する基礎的な知識の修得と日本の財政の現状についての基本的な理解			
授業の概要			
日本の財政の現状に関する具体的な事象を含めた解説によって、基礎的な理論と制度に関する知識を習得し、財政学を体系的に理解することを目指す			
授業計画			
第1回：財政とは			
第2回：日本の財政の現状① 財政構造の特徴			
第3回：日本の財政の現状② 本年度予算の動向			
第4回：予算に関する理論			
第5回：日本の予算制度			
第6回：経費に関する理論			
第7回：日本の経費構造にみられる特徴			
第8回：日本の経費構造① 公共投資			
第9回：日本の経費構造② 社会保障			
第10回：租税に関する理論・日本の租税構造にみられる特徴			
第11回：日本の租税構造①所得税・法人税			
第12回：日本の租税構造②消費税			
第13回：公債に関する理論と制度			
第14回：政府間財政関係・日本の地方財政			
第15回：まとめ：現代社会と財政			
定期試験			
テキスト			
・池上岳彦(2015)『現代財政を学ぶ』有斐閣。植田和弘・諸富徹(2016)『現代財政学』有斐閣。			
参考書・参考資料等			
・神野直彦(2007)『財政学』有斐閣。持田信樹(2009)『財政学』東京大学出版会。			
学生に対する評価			

期末試験（60％）、レポート等（40％）

授業科目名：経済政策	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野崎 道哉
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>マクロ経済政策上の対抗軸として2010年代以降注目されている緊縮と反緊縮という二つの政策思潮について背後にある理論と思想をテーマとする。マクロ経済政策形成に関する理論と実際に関する理解を深めることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>マクロ経済政策上の対抗軸として2010年代以降注目されている緊縮と反緊縮という二つの政策思潮について背後にある理論と思想に焦点を当てる。講義と課題演習の併用を行う。受講生の理解を深めるため、課題レポートを出題し、レポートの内容について講義の中に反映する。双方向の授業とするため、受講生から質問を受けて講義に反映する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：いまなぜ「反緊縮」か：政治的課題となったマクロ経済政策</p> <p>第2回：大安定から長期停滞へ：転換するマクロ経済政策</p> <p>第3回：金融政策における緊縮と反緊縮</p> <p>第4回：政策プログラムとは何か：経済政策における理論と思想</p> <p>第5回：ケインズ主義の中核と防備帯</p> <p>第6回：財政主導ケインズ主義の歴史的意義と問題点</p> <p>第7回：第1回小テスト、フィードバック</p> <p>第8回：マネタリズム反革命からケインズ主義Ⅱへ</p> <p>第9回：ケインズ主義Ⅱの新たな政策戦略</p> <p>第10回：金融政策ルールと中央銀行の政策運営</p> <p>第11回：ケインズ主義Ⅲ：反緊縮のための財政金融統合政策</p> <p>第12回：開放マクロ経済モデルにおける財政・金融政策の相互性</p> <p>第13回：開放経済におけるニューコンセンサス・マクロ経済モデルと代替的ケインジアン・モデル</p> <p>第14回：講義の総括、復習</p> <p>第15回：第2回小テスト、フィードバック</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>野口旭著『反緊縮の経済学』東洋経済新報社 ISBN978-4-492-31536-1</p>			

参考書・参考資料等

授業資料を配布する。参考文献は講義中に指示する。

学生に対する評価

小テスト30%、定期試験70%で総合的に評価する。

授業科目名： 日本経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三和 元
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1 経済学の基礎的諸分野について理解し、経済学的思考によって経済現象の本質を分析できる能力を身につける。</p> <p>2 日本経済の歩んだ歴史を理解し、直面する課題を把握し、それへの対応の途を考える力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>今後の日本経済の行方は不透明であるが、これまでの姿を確認することは、これからの日本経済の変化を捉える上で重要である。</p> <p>2008年には世界金融危機、2011年には東日本大震災と原発大事故を経験した日本経済は、世界的に比較して極めて低い経済成長しか出来ていない。この原因を解明して、新しい選択肢を見出すことを目標に、日本経済を分析する。</p>			
授業計画			
第 1回：はじめに（授業予定とそれぞれの回の概要、成績評価の基準、授業での約束）			
第 2回：日本の経済構造 ①産業構造			
第 3回：日本の経済構造 ②市場構造			
第 4回：日本の経済構造 ③企業構造			
第 5回：日本の経済構造 ④経済政策			
第 6回：日本の金融と財政 ①通貨管理			
第 7回：日本の金融と財政 ②資金資本市場			
第 8回：日本の金融と財政 ③財政制度			
第 9回：日本の金融と財政 ④中央財政と地方財政			
第10回：日本と世界経済 ①日本の国際経済関係			
②アジアとの経済関係			
第11回：日本と世界経済 ③アメリカとの経済関係			
④ヨーロッパとの経済関係			
第12回：日本の国民生活 ①労働者と労働条件			
第13回：日本の国民生活 ②所得と資産			
第14回：日本の国民生活 ③生活水準と物価			

第15回：まとめ + 期末試験

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

三和良一・田付茉莉子・三和元編著『日本の経済』日本経営史研究所 2012年11月。

三和良一・元『概説日本経済史—近現代』第4版 東京大学出版会 2021年9月。

学生に対する評価

授業参加(発言・出席は含めない) + (小テスト) 30%

定期試験 70%

計 100%

授業科目名： 国際経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 直志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では「経済グローバル化」をキーワードとした分析を軸にしつつ、戦後の世界経済の推移に関する解説を進め、今後の国際社会の在るべき姿について考察を深めることを主眼とする。</p> <p>本講義の到達目標は以下の4点となる。①国際経済に関連する諸問題（貿易、国際金融、移民など）について学生が自発的にニュースや新聞・ネット記事をアクセスすることが可能となる土台を作る。②人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を習得し、外国語や外国文化を理解する能力を持つ。③経済学の基礎的諸分野について理解し、経済学的思考によって経済現象の本質を分析できる能力を持つ。④世界や日本の経済・社会への洞察力を持ち、地域社会との持続的発展に貢献できる能力を持つ。</p> <p>（本講義は経済学科DP1. およびDP3. およびDP4. さらに公共政策学科DP1. と関連している。）</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に20世紀後半から現在に至るまでの世界経済が抱える諸問題について、理論と歴史の両面から検討することを主眼とする。経済の話題に限定せず、時間の許す限り政治や社会のトピックスにも言及する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（世界経済の概況）</p> <p>第2回：保護貿易と自由貿易</p> <p>第3回：二国間協定と多国間協定</p> <p>第4回：多国籍企業の動向</p> <p>第5回：国際通貨体制の変容</p> <p>第6回：人口と食糧のバランス</p> <p>第7回：投機にさらされる資源・エネルギー</p> <p>第8回：大競争時代の先進国と新興国</p> <p>第9回：安全保障と累積債務に苦しむ途上国</p> <p>第10回：戦後の世界経済 ①戦後復興援助から東西冷戦へ</p> <p>第11回：戦後の世界経済 ②先鋭化した南北問題</p> <p>第12回：戦後の世界経済 ③冷戦の終結と新自由主義の台頭</p> <p>第13回：戦後の世界経済 ④金融不安低下の時代</p>			

第14回：戦後の世界経済 ⑤様変わりしたG7とBRICS

第15回：まとめ（今後の展望）

定期試験

テキスト

教科書は指定しない。適宜、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考書として、以下の文献を推奨する。

西川潤（2014）『新・世界経済入門』岩波新書。

井上恵理奈（2019）『本当にわかる 世界経済』日本実業出版社。

宮崎勇・田谷禎三（2020）『世界経済図説 第4版』岩波新書。

学生に対する評価

課題レポート（20%）＋期末試験（80%）

授業科目名：哲学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三谷 竜彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 哲学の歴史についての基本的な事柄を説明できる</p> <p>② 現代の哲学についての基本的な事柄を説明できる</p> <p>③ 自分自身で、物事を深く突き詰めて考察するという哲学の思考を、実践できるようになる</p>			
授業の概要			
<p>哲学とは何かというところから考察をはじめ、哲学の歴史、現代の哲学を概説し、最後に哲学に何ができるかを考察する。もって、物事を深く突き詰めて考察するという哲学の思考の一端でも、各学生に体得してもらう</p>			
授業計画			
<p>第1回：哲学とは</p> <p>第2回：哲学の歴史①西洋古代</p> <p>第3回：哲学の歴史②西洋中世</p> <p>第4回：哲学の歴史③西洋近代</p> <p>第5回：哲学の歴史④東洋</p> <p>第6回：哲学の歴史⑤日本</p> <p>第7回：現代の哲学①認識</p> <p>第8回：現代の哲学②論理</p> <p>第9回：現代の哲学③心理</p> <p>第10回：現代の哲学④倫理</p> <p>第11回：現代の哲学⑤科学</p> <p>第12回：現代の哲学⑥技術</p> <p>第13回：哲学に何ができるか</p> <p>第14回：上記のまとめ</p> <p>第15回：上記の補足</p>			
定期試験			
テキスト			
授業資料を配布する			
参考書・参考資料等			

適宜、紹介する

学生に対する評価

リアクションペーパー45%+定期試験55%

授業科目名：倫理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三谷 竜彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 倫理学の歴史についての基本的な事柄を説明できる</p> <p>② 現代の倫理学についての基本的な事柄を説明できる</p> <p>③ 自分自身で、現代社会の倫理的諸課題を考察できるようになる</p>			
授業の概要			
倫理学とは何かというところから考察をはじめ、倫理学の歴史、現代の倫理学を概説する。もって、現代に生きる私たちにとっての倫理学の意義・重要性を理解してもらう			
授業計画			
第1回：倫理学とは			
第2回：倫理学の歴史①西洋古代			
第3回：倫理学の歴史②西洋中世			
第4回：倫理学の歴史③西洋近代			
第5回：倫理学の歴史④東洋・日本			
第6回：現代の倫理学①性と生命—生殖医療			
第7回：現代の倫理学②性と生命—人工妊娠中絶			
第8回：現代の倫理学③死と生命—脳死と臓器移植			
第9回：現代の倫理学④死と生命—尊厳死と安楽死			
第10回：現代の倫理学⑤動物と人間			
第11回：現代の倫理学⑥科学技術と人間			
第12回：現代の倫理学⑦自由			
第13回：現代の倫理学⑧平等			
第14回：現代の倫理学⑨差別			
第15回：上記のまとめと補足			
定期試験			
テキスト			
授業資料を配布する			
参考書・参考資料等			
適宜、紹介する			

学生に対する評価

リアクションペーパー45%+定期試験55%

授業科目名：宗教学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 城福 雅伸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ユダヤ教・キリスト教・イスラム教・神道・仏教の概要を知り、それぞれの宗教が世界に及ぼした影響を理解することを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の影響は世界に大きな影響を与えています。この影響はユダヤ教・キリスト教・イスラム教の発想によるところが大きいのです。そのため、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の持つ発想とその知識無しでは世界は読み解けません。また日本を始め東洋の文化は仏教の影響を受けていますから、東洋の理解には仏教への知識が必要です。さらに日本は仏教の絶大な影響を受けるとともに、日本人の精神の基盤には神道の考えがありますから、仏教と神道の知識無しでは日本人の発想や文化は理解できません。ですから、授業では、これらユダヤ教・キリスト教・イスラム教・神道・仏教の知識を修得することによって、東洋や日本と、欧米・中東社会との根本的な発想や考えの相違を知り、世界の情勢を読み解くこときの有力な手がかりを得ることをめざします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：宗教について－世界の中の宗教の重要性・宗教の定義と分類－</p> <p>第2回：ユダヤ教とキリスト教とイスラム教の関係</p> <p>第3回：ユダヤ教について</p> <p>第4回：ユダヤ教とユダヤ民族の歴史</p> <p>第5回：キリスト教について</p> <p>第6回：キリスト教の歴史</p> <p>第7回：イスラム教について</p> <p>第8回：イスラム教におけるシャリーアの重要性</p> <p>第9回：イスラム教の歴史</p> <p>第10回：神道</p> <p>第11回：神話と現代日本</p> <p>第12回：仏教のめざすこと</p> <p>第13回：苦悩の発生分析－三道－</p> <p>第14回：苦悩の解決法－三学・四諦・六波羅蜜－</p>			

第15回：仏教の他宗教と際だって特徴的な哲学—縁起・空—

定期試験 レポートを提出。

テキスト

参考書・参考資料等：教科書はありませんが、仏教の講義資料は『明解仏教入門』（春秋社）に基づいて作成していますので、仏教の講義部分は参考になるでしょう。ですから、必ず購入しなければならないということはありませんが、持っておくと(将来にわたり)仏教を理解する上では有益だと思います。

学生に対する評価

授業態度の積極性50%、レポートの点数50%で評価します。

授業科目名： 公民科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩井 省一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)		
授業のテーマ及び到達目標 中学公民分野および高等学校公民科教員として必要な基本的な知識を身に付ける。 公民科の特質や目標について，学習指導要領を通して理解することや授業を展開するにあたって，多面的・多角的視点から考察することができる。			
授業の概要 中学公民分野および公民科の基本的原理を概観し，実践上の諸課題を探究する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：公民科の授業を振り返る①（中学校公民的分野） 第3回：公民科の授業を振り返る②（高等学校公民科） 第4回：公民科のイメージ 第5回：公民教育の歴史 第6回：公民の概念と公民的資質 第7回：中学社会の公民分野の性格 第8回：公民科の各科目の性格（公共） 第9回：公民科の各科目の性格（倫理） 第10回：公民科の各科目の性格（政治・経済） 第11回：多面的・多角的視点の育成 第12回：教材研究 第13回：授業における工夫①—授業内容の説明について— 第14回：授業における工夫②—発問について— 第15回：まとめ—公民科教育の意義と課題— 定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説社会編（東洋館出版社），高等学校学習指導要領解説公民編（東京書籍）			
参考書・参考資料等 入門社会・地歴・公民科教育（梓出版社），テキストブック公民教育（第一学習社）			

学生に対する評価

レポート提出（30%），授業への参加姿勢（20%），定期試験（50%）

授業科目名： 公民科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩井 省一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学公民および公民科の授業研究をテーマとし、模擬授業を通して、自己の課題を発見し、修正することができ、自分が理想とする授業とは何かを発見することができることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公民科授業法Ⅰで習得したことを前提とした授業実践と振り返りを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習評価の方法</p> <p>第3回：学習指導案の作成①（中学校公民的分野）</p> <p>第4回：学習指導案の作成②（高等学校公民科）</p> <p>第5回：模擬授業と合評会「中学公民」①（政治分野）</p> <p>第6回：模擬授業と合評会「中学公民」②（経済分野）</p> <p>第7回：模擬授業と合評会「中学公民」③（国際分野）</p> <p>第8回：模擬授業と合評会「公共」①（倫理分野）</p> <p>第9回：模擬授業と合評会「公共」②（政治分野）</p> <p>第10回：模擬授業と合評会「公共」③（経済分野）</p> <p>第11回：模擬授業と合評会「政治・経済」①（政治分野）</p> <p>第12回：模擬授業と合評会「政治・経済」②（経済分野）</p> <p>第13回：模擬授業と合評会「倫理」①（西洋思想）</p> <p>第14回：模擬授業と合評会「倫理」②（日本思想）</p> <p>第15回：まとめ—模擬授業の総括—</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領解説社会編（東洋館出版社），高等学校学習指導要領解説公民編（東京書籍）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>入門社会・地歴・公民科教育（梓出版社），テキストブック公民教育（第一学習社）</p>			

学生に対する評価

授業レポート（40%），参加姿勢（30%），模擬授業（30%）

授業科目名： 地理歴史科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 準一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標や学習内容について、中学校社会科（地理的分野）との関係を踏まえ、地理歴史（地理領域）の見方や考え方に関わる知識や技能を学びます。学習指導案の作成や教材研究、模擬授業などを実施し、地理歴史の見方や考え方に関わる学習内容を、広い視野から実践的に探究していきます。到達目標は、このような活動や探究を通して、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けることです。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標論や内容構成論について、中学校社会科（地理的分野）との関係を踏まえ（学習指導要領の要説）、地理歴史の見方や考え方に関わる学習内容についての理解や考察を深めていきます（授業研究論）。また、地理歴史科教育に関わる学習内容を題材に学習指導案を作成し（教材内容論）、模擬授業に取り組んでいきます（授業実地、ICTの活用）。このような事例研究や授業実践などを通して、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付けていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>地理領域</p> <p>第1回：学習指導要領の要説（1） 高等学校地理歴史科の目標と内容構成、中学校社会科（地理的分野）の目標と内容構成との関係</p> <p>第2回：授業研究論（1） 地理歴史（社会）科の教育史、ESDとSDGs</p> <p>第3回：学習指導要領の要説（2） 地理歴史科（地理領域）の指導計画と指導上の留意点</p> <p>第4回：教材内容論（1） 地理総合Ⅰ（GIS、国際理解）</p> <p>第5回：教材内容論（2） 地理総合Ⅱ（持続可能な社会、防災）</p> <p>第6回：教材内容論（3） 地理総合Ⅲ（地形図などの読解、ICTの活用）</p> <p>第7回：授業研究論（2） 地理歴史科（地理領域）の評価</p> <p>第8回：学習指導要領の要説（3） 地域教材と地域の展望（生活圏調査）</p> <p>第9回：教材内容論（4） 地理探究Ⅰ（系統地理の内容）</p> <p>第10回：教材内容論（5） 地理探究Ⅱ（地誌の内容）</p> <p>第11回：教材内容論（6） 地理探究Ⅲ（地域調査論、ICTの活用）</p> <p>第12回：授業研究論（3） 中学校社会科（地理的分野）と高等学校地理歴史科（地理領</p>			

<p>域)との接続性、中等教科教育(地理領域)の教育課程</p> <p>第13回:授業実地(1) 模擬授業Ⅰ GIS、国際理解</p> <p>第14回:授業実地(2) 模擬授業Ⅱ 持続可能な社会、防災</p> <p>第15回:授業実地(3) 模擬授業Ⅲ ESD、地域調査</p> <p>適宜、小テスト有</p>
<p>テキスト</p> <p>二宮書店編(2022)『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』二宮書店</p> <p>文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社</p> <p>文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜指示します。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>課題レポート(40%)</p> <p>上記以外の試験・平常点評価(60%)</p> <p>課題レポート:課題レポートは考察のまとめや学習指導案の作成(考察はわかりやすく整理されているか。一次文献を踏まえるなど引用作法が適切か。学習指導案は問題意識が明確か。本時案は論理整合性をもって展開されているか。)</p> <p>上記以外の試験・平常点評価:授業の参加度(気づき・感想は学び得たことが整理されているか。模擬授業は完成度の高いものになっているか。)小テスト(知識・理解は定着しているか。)</p>

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高田 準一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標や学習内容について、中学校社会科（歴史的分野）との関係を踏まえ、地理歴史（歴史領域）の見方や考え方に関わる知識や技能を学びます。学習指導案の作成や教材研究、模擬授業などを実施し、地理歴史の見方や考え方に関わる学習内容を、広い視野から実践的に探究していきます。到達目標は、このような活動や探究を通して、教科教育における専門的な知識と実践的な指導力を身に付けることです。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標論や内容構成論について、中学校社会科（歴史的分野）との関係を踏まえ（学習指導要領の要説）、地理歴史の見方や考え方に関わる学習内容についての理解や考察を深めていきます（授業研究論）。また、地理歴史科教育に関わる学習内容を題材に学習指導案を作成し（教材内容論）、模擬授業に取り組んでいきます（授業実地、ICTの活用）。このような事例研究や授業実践などを通して、学習指導案の作成や教材研究、授業づくりなどの専門的な知識や実践的な指導力を身に付けていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>歴史領域</p> <p>第1回：学習指導要領の要説（1） 高等学校地理歴史科の目標と内容構成、中学校社会科（歴史的分野）の目標と内容構成との関係</p> <p>第2回：授業研究論（1） 地理歴史（社会）科の教育史、成績評価の歴史（試験と考査）</p> <p>第3回：学習指導要領の要説（2） 地理歴史科（歴史領域）の指導計画と指導上の留意点</p> <p>第4回：教材内容論（1） 歴史総合Ⅰ（近代化）</p> <p>第5回：教材内容論（2） 歴史総合Ⅱ（国際秩序）</p> <p>第6回：教材内容論（3） 歴史総合Ⅲ（グローバル化）</p> <p>第7回：授業研究論（2） 地理歴史科（歴史領域）の評価</p> <p>第8回：学習指導要領の要説（3） 地域教材と歴史史料（文献調査、ICTの活用）</p> <p>第9回：教材内容論（4） 日本史探究の授業構想</p> <p>第10回：教材内容論（5） 世界史探究の授業構想</p> <p>第11回：教材内容論（6） 地域教材と歴史調査（ICTの活用）</p> <p>第12回：授業研究論（3） 中学校社会科（歴史的分野）と高等学校地理歴史科（歴史領</p>			

<p>域)との接続性、中等教科教育(歴史領域)の教育課程</p> <p>第13回:授業実地(1) 模擬授業Ⅰ 歴史総合</p> <p>第14回:授業実地(2) 模擬授業Ⅱ 日本史探究</p> <p>第15回:授業実地(3) 模擬授業Ⅲ 世界史探究</p> <p>適宜、小テスト有</p>
<p>テキスト</p> <p>帝国書院編(2022)『明解 歴史総合』帝国書院</p> <p>文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社</p> <p>文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜指示します。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>課題レポート(40%)</p> <p>上記以外の試験・平常点評価(60%)</p> <p>課題レポート:課題レポートは、考察のまとめや学習指導案の作成(考察はわかりやすく整理されているか。一次文献を踏まえるなど引用作法が適切か。学習指導案は問題意識が明確か。本時案は論理整合性をもって展開されているか。)</p> <p>上記以外の試験・平常点評価:授業の参加度(気づき・感想は学び得たことが整理されているか。模擬授業は完成度の高いものになっているか。)小テスト(知識・理解は定着しているか。)</p>

授業科目名： 教職総合演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 藤岡 恭子、加藤 聡一、大平 健太
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】：教育実習に向けての教材研究と模擬授業の実施</p> <p>【到達目標】 1. 教育実習校（校種・教科）に即して、「学習指導案」（細案）を作成し、模擬授業を実践することができる。</p> <p>2. 授業におけるICT機器の活用方法を調べ、自ら実演することができる。</p> <p>3. 他者の「模擬授業」について、視点を持って観察し、事実に基づいて記録する習慣を身につけ、論理的にコメントを述べることができるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>1. 前期では、教材研究を深めて「学習指導案」を作成していく。後期では「模擬授業」の実践を通して、「学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）」について考えていく。その際、①個人作業の上で、ピアレビュー、②プレゼンテーション・発表、③ディスカッションを組み入れて、受講生どうしの「学び合い」のプロセスを大切ににする。</p> <p>2. ICTに関しては、授業におけるTeamsの活用、「共有フォルダー」の活用等、資料のデジタル化、1人1台端末の積極的な利活用、そのほか、学生の端末からのミラーリングによる画面共有や、ICT活用の個別事例の紹介、自身の模擬授業の動画観賞等、教育現場におけるICT機器の活用方法を相互に学び合えるようにする。</p> <p>3. 年間で3回程度、ゲスト講師を招聘して合同ゼミを行う。現場での実践的な体験談等を聞くことにより、教育実習に向けての心構えや知識・技能等を深める機会にする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：ゼミ運営組織づくり、今後の方向性を協議により決定する。</p> <p>第2回：採用試験の面接練習(1) —自己アピール文の原稿作成。相互にコメントし合う。</p> <p>第3回：採用試験の面接練習(2) —自己アピールについて：面接者チーム、面接官チームに分かれて実演する。そのあと、相互にコメントし合う。</p> <p>第4回：教材研究(1)—『学習指導要領解説（各教科編）』に基づき、各自、教材研究を進める。</p> <p>第5回：教材研究(2)—参考図書を参照して、各自、教材研究を進める。</p> <p>第6回：学習指導案の作成(1) —①各自の教育実習先の校種・教科の選定。②「教科書」により単元の</p>			

選定。③各自、教材研究を進める。

第7回：学習指導案の作成(2) —「細案」の書き方、体裁上の基礎的なこと、留意点を資料に基づき講義。各自、「略案」を考える。

第8回：学習指導案の作成(3) —個人作業。小グループに分かれて、相互に確認しながら進める。

第9回：学習指導案の作成(4) —小グループに分かれて、相互に確認しながら進める。

第10回：各自の学習指導案についての中間発表(1) —1回につき3人程度(1人あたり発表10分)、他の受講生からのコメント・教員からのコメント。司会・記録は、次回発表グループが担当する。

第11回：各自の学習指導案についての中間発表(2) —1回につき3人程度(1人あたり発表10分)、他の受講生からのコメント・教員からのコメント。司会・記録は、次回発表グループが担当する。

第12回：各自の学習指導案についての中間発表(3) —1回につき3人程度(1人あたり発表10分)、他の受講生からのコメント・教員からのコメント。司会・記録は、次回発表グループが担当する。

第13回：ゲスト講師の招聘(合同ゼミ：未定)

第14回：ゲスト講師の招聘(合同ゼミ：未定)

第15回：ゲスト講師の招聘(合同ゼミ：未定)

第16回：模擬授業の準備についての確認：①生徒役への配布資料(ワークシート・資料等)、②板書に使うパネルや映像資料等の準備等。時間外での学修として板書の練習等。

第17回：模擬授業に向けての事前指導(1)—1回につき3人程度、模擬授業(30分)のリハーサルを行い、改善点等をコメントし合う。

第18回：模擬授業に向けての事前指導(2)—1回につき3人程度、模擬授業(30分)のリハーサルを行い、改善点等をコメントし合う。

第19回：模擬授業に向けての事前指導(3)—1回につき3人程度、模擬授業(30分)のリハーサルを行い、改善点等をコメントし合う。

第20回：模擬授業の実施(1) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第21回：模擬授業の実施(2) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第22回：模擬授業の実施(3) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第23回：模擬授業の実施(4) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第24回：模擬授業の実施(5) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第25回：模擬授業の実施(6) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第26回：模擬授業の実施(7) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。

合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第27回：模擬授業の実施(8) —1回につき1人の模擬授業を行う(模擬授業50分、合評会40分)。

合評会については、司会及び記録を模擬授業者が行う。

第28回：中学校一日研修への参加と振り返りレポートの作成。

第29回：4年生の「実習報告会」への参加と振り返りレポートの作成。

第30回：まとめ—「中学校一日研修」で学んだことの発表、意見交換。

テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説(各教科編)』、『高等学校学習指導要領解説(各教科編)』。そのほか、授業内容に即して、適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

佐藤学『学びの共同体の創造—探究と協同へ』小学館、2021年。石井英真『授業づくりの深め方—「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房、2020年。そのほか、授業内容に即して、適宜、資料を紹介する。

学生に対する評価

・①「レポート等」：10点/回×5回=50点、②「学習指導案」完成版：25点、③「模擬授業」の実施および「振り返りレポート」：25点で、総合的に評価する。

・以下の到達目標の観点について評価を行う。

〔到達目標1〕1時間分の「学習指導案」(細案)を作成することができたか。50分の「模擬授業」を行うことができたか。

〔到達目標2〕授業におけるICT機器の活用方法を調べ、自らの「模擬授業」で実演することができたか。

〔到達目標3〕授業を視点を持って観察し、事実に基づいて記録する習慣を身につけているか。また、「一日中学校研修」の場で、論理的にコメントを述べることができたか。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水野 和佳奈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法は国の最高法規として、国の統治のあり方（統治機構）と、基本的人権（人権規定）を規定している。本講義では、特に「基本的人権」を中心に講義を行う。講義では、憲法の基本的な内容を説明するとともに、これらの規定が私たちの生活や近時の社会情勢とどのように関連するかについても説明する。本講義では以下の2点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の位置づけ、目的、基本的仕組みを理解する。 2. 基本的人権に関する規定の基本的な内容と具体的事例を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>憲法の基本的人権に関する歴史的な経緯、基礎的意義、主要な判例等の説明を通じて、現実社会における人権保障のあり方を学ぶ。</p> <p>講義は原則として講義方式で行われるが、随時小テストや小レポート、グループワークを行い、受講生の理解を確認しながら内容を進める。なお本講義では、Teams（ICT、学習支援システム）を利用して、講義資料を配布・参照する。また、小テストや調査演習等の課題もTeamsを利用して出題し、評価し、記録する。Teams上に記録された課題や評価は受講生自身でいつでも確認でき、また、教員と受講生は、Teamsで講義内容等に関する質疑（文字でのやりとり、通話等）をすることもできる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 日本国憲法の基礎、人権保障</p> <p>第2回：幸福追求権（1）プライバシー権</p> <p>第3回：幸福追求権（2）自己決定権</p> <p>第4回：信教の自由と政教分離 意義と判例</p> <p>第5回：表現の自由 規制と判例</p> <p>第6回：財産権、意義、判例</p> <p>第7回：職業選択の自由 意義、判例</p> <p>第8回：法の下での平等 法の下での平等の意義、判例</p> <p>第9回：人身の自由 適正手続の保障、判例</p> <p>第10回：生存権 社会権および生存権の意義、判例</p> <p>第11回：教育を受ける権利 教育権の意義、判例</p>			

第12回：グループワーク 身近な事例の分析

第13回：講義の振り返り 要点の確認、応用

第14回：小テスト、総括 小テストの実施と講義内容のまとめ

第15回：定期試験（予定）および解説 小テスト及び定期試験問題の解説

テキスト

教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

講義の理解を助ける参考書として、中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一 編著『はじめての憲法学（第4版）』（三省堂、2021年）。

学生に対する評価

「憲法の位置づけ、目的、基本的仕組みを理解しているか」、「基本的人権に関する規定の基本的な内容と具体的事例を理解しているか」を評価基準として、期末試験 50%、経常課題・小テスト40%、グループワーク 10%で評価する。

授業科目名： 体育実技A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 正紀
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標（種目：サッカー）</p> <p>この授業においては、「勝ちにこだわること」と「楽しさにこだわること」をどのようにしたら両立することができるのか、について「スポーツパーソンのこころ」という考え方をベースに授業内で実際に実技を通して体験することで、受講生の各自が近代オリンピックの「オリンピックズム精神」へ一歩でも近づくことを目的としています。</p> <p>また、この授業ではゲームを通してのチームワーク能力とチームワーク形成に必須のコミュニケーション能力の獲得（DP2）を目指します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体育実技授業展開の独自メソッドであるMT法に基づいて、カードを利用したチーム分け・リーダー輪番など、リーダーシップやメンバーシップの育成を視野に入れた授業実施方法を行います。遠隔授業の必要性がある場合は、Teamsやzoomを利用したオンラインライブ授業を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 実技受講上の注意</p> <p>第2回：種目実施に関わる基礎講義（スポーツパーソンのこころの理解）</p> <p>第3回：実技展開（準備・チーム分け方法・片付け等）ガイダンスとフニーニョ体験</p> <p>第4回：アイコンタクトの実践 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第5回：動きながらの位置の確認 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第6回：基礎技術 止める技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第7回：基礎技術 蹴る技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第8回：アイコンタクト+止める技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第9回：アイコンタクト+蹴る技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第10回：コウモリプレイヤーの活用 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第11回：基礎技術 外す技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第12回：異なる属性のプレイヤーの混成 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第13回：新ルールの創造 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第14回：スポーツ実践への主体的参加による実技テスト</p>			

第15回：教室での講義・実技の振り返り および 確認テスト
定期試験

テキスト

教科書は特になし

必要に応じてプリント等配布

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

毎回の授業への主体的な参加状況の評価（毎回の授業後レポートの提出を含む）

5点満点×13回 =65点

※第1回講義で学んだ心構え（スポーツパーソンのこころ）に対して、毎回の授業でどれだけ
トライできているかによって評価します。

第14回の実技テスト 15点

※第1回講義の学習内容のうち、自己決定とリーダーシップ、メンバーシップに関わる部分を
主に確認して評価します。

最終回の教室講義時に行うテスト 20点

※「楽しむことにこだわる」という事について、コミュニケーションのベースとなる受講メン
バーの顔と名前の一一致の確認と、すべての実技を終えての振り返りを行い評価します。

授業科目名： 体育実技B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 正紀
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標（種目：サッカー）</p> <p>この授業においては、「勝ちにこだわること」と「楽しさにこだわること」をどのようにしたら両立することができるのか、について「スポーツパーソンのこころ」という考え方をベースに授業内で実際に実技を通して体験することで、受講生の各自が近代オリンピックの「オリンピックズ精神」へ一歩でも近づくことを目的としています。</p> <p>また、この授業では体育実技Aの内容からさらにレベルをワンランク上げたい技術・戦術の獲得を目指すと共に、ゲームを通してのチームワーク能力とチームワーク形成に必須のコミュニケーション能力の獲得（DP2）を目指します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体育実技授業展開の独自メソッドであるMT法に基づいて、カードを利用したチーム分け・リーダー輪番など、リーダーシップやメンバーシップの育成を視野に入れた授業実施方法を行います。遠隔授業の必要性がある場合は、Teamsやzoomを利用したオンラインライブ授業を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 実技受講上の注意</p> <p>第2回：種目実施に関わる基礎講義（スポーツパーソンのこころの理解）</p> <p>第3回：実技展開（準備・チーム分け方法・片付け等）ガイダンスとフニーニョ体験</p> <p>第4回：アイコンタクトの実践+見ない時 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第5回：動きながらの位置の確認+止まる時 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第6回：基礎技術 運ぶ技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第7回：基礎技術 消える技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第8回：アイコンタクト+運ぶ技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第9回：アイコンタクト+外す技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第10回：コウモリプレイヤーの活用 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第11回：基礎技術 消える技術 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第12回：異なる属性のプレイヤーの混成 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p> <p>第13回：新ルールの創造 フニーニョ（スモールコート4ゴールゲーム）</p>			

<p>第14回：スポーツ実践への主体的参加による実技テスト</p> <p>第15回：教室での講義・実技の振り返り および 確認テスト</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>教科書は特になし</p> <p>必要に応じてプリント等配布</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業への主体的な参加状況の評価（毎回の授業後レポートの提出を含む）</p> <p style="text-align: right;">5点満点×13回 =65点</p> <p>※第1回講義で学んだ心構え（スポーツパーソンのこころ）に対して、毎回の授業でどれだけトライできているかによって評価します。</p> <p>第14回の実技テスト 15点</p> <p>※第1回講義の学習内容のうち、自己決定とリーダーシップ、メンバーシップに関わる部分を主に確認して評価します。</p> <p>最終回の教室講義時に行うテスト 20点</p> <p>※「楽しむことにこだわる」という事について、コミュニケーションのベースとなる受講メンバーの顔と名前の一致の確認と、すべての実技を終えての振り返りを行い評価します。</p>

授業科目名： 体育実技B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 揖斐 祐治
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標（種目：ジョギング）</p> <p>1) 正しいジョギングフォームを身に付ける。</p> <p>2) ジョギングの強度を理解し、自分自身でペースを設定できるようにする。</p> <p>以下の到達目標は、本学スポーツ経営学科のディプロマポリシー（卒業認定：学位授与の方針）に直接結びついています。</p> <p>3) 実技を通し日本人同士、外国人とも共感しあうコミュニケーション能力を持っている。</p> <p>4) 地域におけるスポーツ振興の課題を見つけ、その解決のために貢献できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ジョギングとは、ゆっくりとした速度で走る為、長時間の有酸素運動による脂肪燃焼や心肺機能の向上、筋力アップによる基礎代謝の増加などの効果が得られます。この授業では、ジョギングの基礎知識を学び、正しいジョギングフォームを身に付けどの位運動強度でジョギングすれば今の自分にとって効果的かなど今後自分自身で楽しみながらジョギングができるようにする事を目的とします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義概要、授業進行方法、成績評価等説明）</p> <p>第2回：ジョギングの目的、効果、基本動作、脈の測り方</p> <p>第3回：正しいジョギングフォームの理解（リラックス走法）</p> <p>第4回：ストライド走法とピッチ走法の違い</p> <p>第5回：ジョギングにおける運動強度（心拍数）の設定</p> <p>第6回：ジョギング実践 時間走 20分</p> <p>第7回：ジョギング実践 時間走 25分</p> <p>第8回：ジョギング実践 時間走 30分</p> <p>第9回：ジョギング実践 時間走 35分</p> <p>第10回：ジョギング実践 野外走 曾根城公園往復</p> <p>第11回：ジョギング実践 野外走 神戸スポーツ公園往復</p> <p>第12回：ジョギング実践 野外走 神戸薔薇公園往復</p>			

第13回：ジョギング実践 駅伝形式 1.2kmコース

第14回：ジョギング実践 駅伝形式 2kmコース 1回目

第15回：ジョギング実践 駅伝形式 2kmコース 2回目、基礎知識テスト

テキスト

配布資料はこちらで用意する。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

積極的な授業への取り組み 70点

ジョギングの基礎知識テスト 30点

成績評価のうち、ジョギングの基礎知識テスト30点は、到達目標「ジョギングの強度を理解し、自分自身でペースを設定できるようにする」の理解度を測る

授業科目名： 健康とスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 揖斐 祐治
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 健康とはどのような常態か十分な知識を持ち理解する。</p> <p>2) 健康を維持増進するための手段や方法を理解する。</p> <p>3) 講義で得た知識から健康を維持増進するためのスポーツを実施できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会における健康の問題点は、運動・栄養・休養・喫煙・飲酒などのライフスタイルが誘因となる「生活習慣病」に注目しなければならない。これは別名「運動不足病」ともいわれるくらい運動とのかかわりが深い。健康で充実した人生を送るために、健康とはどのようなものなのか考え健康とスポーツに関する科学的な知識を身につけ、その健康を獲得・維持するための手段と方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義概要、授業進行方法、成績評価等説明）</p> <p>第2回：健康とは</p> <p>第3回：健康と体力</p> <p>第4回：生活習慣病とその予防</p> <p>第5回：肥満とその予防</p> <p>第6回：健康・スポーツと栄養</p> <p>第7回：現代社会におけるスポーツ</p> <p>第8回：中間テストを実施し、講義内容を振り返り、グループごとにディスカッションをおこない内容を再度確認する</p> <p>第9回：スポーツにおける外傷・障害</p> <p>第10回：スポーツ障害の予防</p> <p>第11回：乳酸を活かした健康増進とシェイプアップ</p> <p>第12回：スポーツにおける血液成分</p> <p>第13回：ジョギング・ウォーキング</p> <p>第14回：健康とスポーツにおける実践例（スポーツ栄養・コンディショニング・スポーツメンタルトレーニング）</p>			

第15回：定期試験・解説、まとめ（講義内容を振り返り、グループごとでディスカッションをおこない内容を再度確認する）

テキスト

テキストは使用しません。

講義で必要な資料は、こちらで用意します。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

小テスト 25点 (2.5点×10回)

中間テスト 25点

定期試験 50点

成績評価のうち、定期試験50点については、到達目標1～4の理解度を測る。

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浦崎 佐知子
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は、基本的な語（句）、発音、リスニング&スピーキング、会話、文法、構文、英文の型などを整理し、読解、英作文など、さまざまなドリル学習をベースに、英語の基礎から応用発展理解の段階へと到ることを目標とします。</p> <p>四技能（CEFR）を関連させ、統合する学習を通して、基礎英語の理解不足や不安定を補い、集中的な応用英語へのフォローアップに繋がります。その上に、発展的に、自由な英語表現とコミュニケーションの学習へと開きます。簡単な内容を「英語で聞く、語る、書く、読む、話し合う」練習をペアワークやグループワークの中で実践し、コミュニケーション学習を練り上げ、後期開講の「英語Ⅱ」へと繋いでいきたいと考えています。基本的な学習理解を基礎に初歩的な英語リテラシーを習得すること、そして平易な英語でコミュニケーションをとれることを目標とします。</p> <p>このような観点から、本講義は本学のカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）と関連しています。</p> <p>（経済学科、経済学科企業人育成課程、公共政策学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-2年次において、人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を修得し、外国語や外国文化を理解するための科目を履修します。 ・人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を修得し、外国語や外国文化を理解する能力を持つ。 <p>（経営情報学科、スポーツ経営学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-2年次において、人文・社会・自然科学や情報処理に関わる科目を履修し、外国語や外国文化および体育の科目を修得します。 ・人文・社会・自然科学や情報処理に関わる基礎的素養を修得し、かつ外国語や外国文化を理解する能力を持つ。 ・日本人同士、外国人とも共感しあうコミュニケーション能力を持つ。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、高校までの学習で身につけた基礎的な英語力をさらに充実することを目的とします。</p> <p>いまや英語は現代社会において基礎的な教養であり、基本的なツールとなっています。日本</p>			

社会には多数の英語や外国語由来のカタカナ（ことば）が存在します。現在も新出の語は引きも切らず出現し続けています。さまざまなメディア（テレビ、雑誌、インターネット（SNS）など）に英語が溢れ、「ことば」をめぐる状況は複雑な綾織りの様相を呈しています。

ただ、本来の英語学習はシンプルなものです。日常の生活において、簡単な英語を理解しておいた方が便利ですし、表現、運用できた方が「やはり得かな」と思うことはないでしょうか。時事のニュースを知り、歴史や文化、社会や経済、経営、情報、金融、国際情勢を学ぶ上で、英語の基礎を確かなものにしておくことはほんとうに大切です。

現在、新しいツールを使った英語学習へのアプローチが多彩且つ魅力的に展開されています。英語学習の環境はじぶんたちで自由（フリー）にセットできるのです。基礎英語は学習した時間分がかならず成果としてついてきます。いったん学習環境を整えてリセット。一緒に英語学習を楽しみましょう。

授業計画

第1回：ガイダンス（講義内容、小テスト実施、課題提出、formsクイズ、writingなどについて）

*受講に関する注意事項と英語学習の基本

*クラスプレースメントテスト実施

第2回：クラスガイダンス（予習復習の提出方法について）

Unit1 Welcome to New York!

第3回：Unit1 Welcome to New York!（教科書登録作業など）

*英文（英語）入力の基本

第4回：Unit2 Long Time No See（第4回Unit2復習クイズ&第5回Unit2予習クイズ配布）

第5回：Unit2 Long Time No See（第5回Unit2復習クイズ&第6回Unit3予習クイズ配布）

第6回：Unit3 Why Study English?（第6回Unit3復習クイズ&第7回Unit3予習クイズ配布）

第7回：Unit3 Why Study English?（第7回Unit3復習クイズ&第8回Unit4予習クイズ配布）

第8回：Unit4 A New York Shopping Experience（第8回Unit4復習クイズ&第9回Unit4予習クイズ配布）

第9回：Unit4 A New York Shopping Experience（第9回Unit4復習クイズ&第10回Unit5予習クイズ配布）

第10回：Unit5 Restaurant Gratuity（第10回Unit5復習クイズ&第11回Unit5予習クイズ配布）

第11回：Unit5 Restaurant Gratuity（第11回Unit5復習クイズ&第12回Unit6予習クイズ配布）

第12回：Unit6 Learning through Mistakes（第12回Unit6復習クイズ&第13回Unit6予習クイズ配布）

第13回：Unit6 Learning through Mistakes（第13回Unit6復習クイズ&第14回Unit7予習クイズ配布）

第14回：Unit7 "Peak" Performance（第14回Unit7復習クイズ&第15回Unit7予習クイズ配布）

第15回：Unit7 "Peak" Performance

General Review / performance / test (定期試験に代わるテストなど)

テキスト

- ・教科書テキスト（朝日出版社）を使用します。詳細については第1回授業時にご案内します。
 - 第2回授業時に出版社より直で購入いただきます。（安価になります）
 - 大学丸善では購入できません。また、じぶんで購入しないでください。真正なものを購入しないと、授業での課題提出などに対応できない可能性が高いのです。ご注意ください。
 - ・教科書テキストを適正に購入の上、毎回の授業時に忘れずに持参ください。
 - ・かならず他人の書き込みのない、新しいもの（本の形状の教科書）を持参すること。
（電子端末に教科書内容（カメラ撮影など）を入れたものは認められません）
 - ・貸し借りはしないでください。
- *著作権を侵害するような行為を認めることはぜったいにありません。

- ・第1回目授業にかならず出席してください。
（第1回目授業に正当な理由無く欠席する学生については、受講を許可しない場合があります。）
- ・第2回授業時に教科書テキストを購入できます。詳細は第1回授業でご案内します。
- ・教科書は必携です。持ってこない場合、出席カウントしません。
（教科書がないと授業学習に取り組んでいただくことができません。）

（最重要注意）

- *一年次ですでに中国語（コース）履修済みの二年生以上の皆さんが「英語 I」を受講希望される場合、いったん教務課窓口でご相談ください。
- *教科書テキスト購入の件は第1回授業でご案内します。第2回授業時に購入できます。かならず適正に購入してください。
- *再履修学生の皆さんは、1年生と同様、第1回授業に出席の上、プレースメントテストを受けてください。教科書購入についても、1年生と同様、第2回授業時に購入できます。かならず購入してください。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

（前期金1）

授業は計15回

出席10回以上

- ・本講義においては、授業での取り組み（パフォーマンス）を積極的に評価します。アクティブな学習（ペアワーク、グループ学習）時間を担保し、理解を助けます。評価の大きな対象で

す。

- ・合格の基準は、合計60点以上
- ・総合点は100点（合計100点中 90-100はAA、80-89はA、70-79はB、60-69はC、59点以下はD）
- ・合格基準は平常点、小テスト（課題含む）あわせて60点以上。出席点はありません。

（評価の配分）テスト&平常点

テスト（クラスでの小テスト数回分など含む）60%

①テストの成績評価

平常点（総合的に評価）40%

②授業外課題（予習復習など宿題提出）

③授業内課題（完成の上提出）

④授業での取り組み（課題以外の平常点）については総合的に評価。*ルーブリック評価

（クラス学習に対する貢献度、発表内容、ドリル学習の出来映えなどを総合評価）

*遅刻、居眠り、おしゃべり、忘れ物、情報端末の不適切な操作（ゲーム）などは大きなマイナス評価の対象

（平常点の配分）

- ・（授業開始前）予習課題提出 5%
- ・授業学習内容の確認（基礎点） 10%
- ・授業中の取り組み／小テストなど 10%
- ・当日学習の解き直し（復習）として、授業後（授業時間外の宿題）課題提出 10%
- ・その他 5%

（注意事項）

教科書テキスト、筆記用具、ノート、ノートPCなどを適正に使用します。

すべて必携です。忘れると、結果的にみなさんの不利益になります。

授業科目名： 情報リテラシーA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 及川 浩和
			担当形態： 単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. コンピュータに関する基礎知識を有し基本操作ができる。</p> <p>2. 文書作成，帳票作成，発表用資料作成，ビジネス文書作成ができる。</p> <p>本授業は，以下のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）と関連しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文・社会・自然科学や情報処理，日本語の文章表現に関わる基礎的素養を修得し，外国語や外国文化を理解する能力を持つ（経済学部，経済学科企業人育成課程，公共政策学科）。 ・人文科学，社会科学，自然科学，情報リテラシー，および論理的な文章表現力を身に付けている（情報メディア学科，スポーツ経営学科）。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はパソコンを利用した実習形式で行う。 ・学習資料の提示と課題の提出等は，Office365による学習支援環境（Teams）を利用する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（Office365による学習支援環境（Teams），Windows Defenderによるセキュリティ），データを守る上での留意事項，データ・AI利活用における留意事項，文字入力（ローマ字入力とかな入力，ひらがな，カタカナ，アルファベット，漢字記号，IMEパッド）文章の入力・訂正（文節変換，文字の削除，再変換）</p> <p>第2回：社会で起きている変化について（Society5.0），データ・AIの活用領域と最新動向，文書の作成（基本的な文書の構成，右揃え・左揃え，センタリング（中央揃え））</p> <p>第3回：文字の拡大と縮小（文字サイズの変更，文字の拡大と縮小），文字の修飾（下線（アンダーライン），網かけ），データ・AI利活用の現場</p> <p>第4回：表を活用した文書の作成（表の挿入・文字入力，表の列幅の調整，表内のセンタリング・均等割り付け）</p> <p>第5回：表の編集（行の挿入，行の削除，セルの結合・配置，線種の変更，セルの網かけ（塗りつぶし）表のスタイル）</p> <p>第6回：画像や図形を活用した文書の作成（ページの色，ページ罫線の利用，ワードアートの利用，文字の効果，図形の描画・回転・コピー・効果・挿入・画像の配置・サイズ変更，文字表示倍率の変更，テキストボックスの挿入）</p> <p>第7回：表計算ソフトとは（ワークシートの表示，表計算ソフトでのカーソル，ブック，表計算ソフト</p>			

トでの文字と数字，データの編集，オートフィル），データ・AI利活用のための技術について

第8回：データ入力の基礎（計算式の入力，再計算と演算子，表示形式の変更，列幅の変更，表示位置の変更，書式の変更）

第9回：関数を使った計算式（合計（SUM），平均（AVERAGE），最大（MAX）・最小（MIN），数を数える（COUNT・COUNTA））

第10回：小数点とセルの参照（パーセントスタイルと小数部表示の調節，小数点を操作する関数，相対参照と絶対参照，割合），罫線，行の挿入

第11回：グラフ（グラフの作成，項目の追加，離れたデータを使ったグラフ）

第12回：条件判定と順位付け（条件判定（IF），IF関数の使い方，複合条件による判定，順位付け（RANK.EQ））

第13回：検索関数の利用（列の検索（XLOOKUP），条件に一致するセルの計算（COUNTIF・SUMIF）），Excelの便利な機能（セルの参照機能，文字列の結合，セルの条件付き書式(1)，セルの条件付き書式(2)，並べ替え（ソート），フィルター，セルの結合），データ・AI利活用のための技術について（データ解析）

第14回：プレゼンテーションの作成（文字修飾と図形の活用，グラフの活用，SmartArtの活用，表の活用と画像の挿入，ワードアートの挿入，スライドショーと資料作成）

第15回：Officeのフォトタッチ機能（明るさとコントラストの調整，画像の切り出し（トリミング，色調の変更，アート効果，画像の合成）

定期試験は実施しない。

テキスト

30時間でマスターOffice2021（実教出版），1,150円，ISBN978-4-407-35937-4

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

・到達目標の「コンピュータに関する基礎知識を有し基本操作ができる，文書作成，帳票作成，発表用資料作成，ビジネス文書作成ができる」について，その理解度・習得度を「学習課題」を以って次の配点で評価する。

・学習課題（100%）

・第1回から第15回までの講義で課された学習課題の得点合計を100点満点に換算し評価する。

授業科目名：教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 聡一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。</p>			
【 到達目標 】			
<p>①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。</p>			
<p>②教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。</p>			
<p>③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。</p>			
<p>④キーワードをひろって自分の学びを加え、教育を構想するーそのような学びへの転換を図る。「教育的信条」にまとめる。</p>			
<p>⑤「教師になる」と狭く考えることを開放し、人類的な視野をもつ。専門も活かし、「地域創生、一億総活躍」社会の理解と実現を考える。</p>			
<p>⑥専門（経済・公共・経営・情報・スポーツ等）の学びを興味・目的・職業（「エンジョイ○○」）を軸に教職でもつながりを考える習慣を持つ。他の学科の人に教える。また、地域社会の状況・課題との関連を具体的に考える（社会に開かれた教育課程・地域学校協働）。</p>			
授業の概要			
<p>アクティブラーニング型の授業を経験する形で進める。テキストを使用し、毎回のレジュメと重要資料を印刷配布して進める。ノートPCを毎回持参して使用する。Microsoft Teamsを活用して、pdf資料の提示（会議の画面共有）、WordやExcel、Powerpointファイルの共有を行う。グループを組んで、グループで課題に取り組んだり、作業の共有をはかる。「Learning by teaching.」の実践をはかり、自分だけでなく、グループやクラスといった所属する集団の学びが促進するような、教師の基本となる経験を意識して進める。学部のICT教育、DX教育との相乗効果をはかる。調べることについては、動画の検索も積極的にはかり、教師になった際の教材研究につながるようにする。</p>			
<p>まず各自が、「エンジョイ○○」を自覚し、大学生生活の軸をつくることで、「主体的対話</p>			

的で深い学び」への転換・深化を図ってほしい。また、教職は専門と別にあるのではない。相互に深め合うと同時に、複数学科の学生と一緒に学んでいることを活かし、それぞれの専門や得意なことを伝え合う練習をしてほしい。大学も学校であり、また地域であるので、大学生活自体を充実したものにしてほしい。それが教師の根底の力になる。ICTの活用も図っていくがともに試行錯誤していこう。完成されたICTの活用を「学ぶ」のではなく、遊び心をもって、活用方法を広げていこう。Microsoft OneNoteによる情報収集、共有、デジタル教科書の開発に挑戦する。

授業計画

第1回：授業のオリエンテーション ノートPCの準備と練習、グループの組み方、教科書の使い方など 教職課程全体の中でのこの授業の位置づけの説明 シラバスの説明

第2回：「エンジョイ〇〇」 興味関心から職分・専門、そして職業へ デューイ『民主主義と教育』の考え方 自己紹介

第3回：試験・受験制度と「エンジョイ〇〇」 産業界の状況（メッセナゴヤ紹介）

第4回：人生全体をとらえる ライフサイクルと発達課題 出生 兄弟 人生の過渡期 志・仲間・職業・家族 学校と教育 「ぼけなんか怖くない」 あこがれの人の人生

第5回：大学で学ぶーギリシャ哲学 目標をもつ アイデア プラトン 教養Bildungとは「岐阜協立大学」という「学校」

第6回：中学生の発達と生活 心の小箱ーあこがれの人のー大いなる世界 恋愛と家族

第7回：ルソー 内なる自然 思春期の発見 身体 感覚ー理性 書き言葉と話し言葉

第8回：ペスタロッチー 内なる自然2 生活陶冶 施設と学校 福祉と教育 直観と理性

第9回：フレーベル 子どもの園 恩物から教材の配列意識へ 保育園の思想

第10回：学校の誕生とカリキュラム ヘルバルト 寺子屋から義務制小学校へ

第11回：ポストモダン教育学（フォーコー、イリイチ）と教育の病理（学力競争、いじめ、不登校

第12回：国連憲章ー日本国憲法ー教育基本法ー学習指導要領 近代教育史

世界情勢と教育 スプートニクショックと1958年学習指導要領

第13回：新しい教育の方向性とはー新学習指導要領 世界・日本・地域の問題 社会に開かれた教育課程 地域学校協働

第14回：主体的対話的で深い学び 3つの資質・能力ー特に「学びに向かう力、人間性など」

第15回：「教育的信条」の作成

定期試験

テキスト

- ・吉田武男監修滝沢和彦編著『教育学原論（MINERVAはじめて学ぶ教職1）』ミネルヴァ書房
- ・『【総則編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』『【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』（文部科学省）

参考書・参考資料等

・参考動画チャンネル 子ども・青年の生活と発達研究室 ほか

学生に対する評価

数回の課題と最後のレポート（教育的信条）による。レポートを100点（100%）とする。すべての課題提出がレポート採点の条件である。

授業科目名：教職総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤岡 恭子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等の理解</p> <p>授業の到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職の社会的意義を理解し、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 2. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 3. 教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>教職の意義、教員に必要な人間性及び専門職性（免許要件・職務内容・服務義務等）を理解するとともに、子どもの人間発達への理解を深め、主体的に勉学やその他の活動に取り組むなかで、探究心をもって「学び続ける」心構えと態度を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション—教職科目を学ぶことの意味を考える：ユネスコ学習権宣言から—</p> <p>第2回：教職の意義—教員免許状の種類、教職の特殊性、教職の意義</p> <p>第3回：教職観と理想の教員像—専門職としての教員の役割、これからの理想的教員像</p> <p>第4回：教員免許制度改革の動向—教員免許更新制の実施及び廃止</p> <p>第5回：これからの時代の教員に求められる資質能力—「学び続ける教員像」；「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成（中教審答申2015年）</p> <p>第6回：教員の任用および教員の身分—教員の配置と任用、教員の身分と任用</p> <p>第7回：教員の服務—服務の根本基準、服務上の義務、身分上の義務</p> <p>第8回：教職員の身分保障と分限・懲戒—分限処分と懲戒処分</p> <p>第9回：教員研修の意義—初任者研修制度、中堅教諭等資質向上研修、教職大学院</p> <p>第10回：教員の職務(1) 職務内容、学校保健に関する職務</p> <p>第11回：教員の職務(2) 教育活動に関する職務—学習指導と生徒指導、学級経営</p> <p>第12回：管理職の職務—校長と学校管理機関、校長の職務権限、副校長・教頭の職務</p> <p>第13回：主幹教諭・指導教諭の職務、主任等の役割と校務分掌</p>			

第14回：教職への進路選択と教員採用選考—教育実習の意義と心得、教職への道：採用の方法

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

伊藤良高・大津尚志・橋本一雄編『ポケット教育小六法』晃洋書房（最新年度版）。そのほか毎回の参考文献は、適宜PDFにて配布する。

参考書・参考資料等

佐藤晴雄『教職概論〔第6次改訂版〕』学陽書房、2022年。佐藤学『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店、2015年。中央教育審議会答申ほか適宜授業時に紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業への参加と理解（議論への参加、授業ノート作成、ミニレポート提出）：40%、レポート及び期末試験：60%により総合的に評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤岡 恭子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：子どもの学習権保障を実現する教育制度のあり方を探究する</p> <p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付ける。 2. 教育関係法規を理解し、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。 3. 学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>学校の教育実践を支える法的・制度的仕組みと教育制度をめぐる諸課題について学ぶ。学校教育を構成する各主体（子ども、保護者・住民、教師・校長、教育委員会など）にどのような権利・権限や責務があるのかを理解する。各主体（教育行政を含むすべての学校関係者）が、子どもの学習権保障を中核に据えて、組織的・協働的な実践を創り出すことができるか、地域学校協働活動や学校運営協議会の取組事例の検討を通して、学校・家庭・地域の連携及び学校安全への対応について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育制度とは—日本の教育制度を支える基本原理</p> <p>第3回：日本国憲法と教育を受ける権利—学習権保障の意味を考える</p> <p>第4回：学校制度の基本原理(1) 学校の種類・設置者</p> <p>第5回：学校制度の基本原理(2) 学校体系、世界主要国における教育制度改革動向</p> <p>第6回：教育を受ける権利の保障(1) 公教育の3原則、義務教育の目的・目標</p> <p>第7回：教育を受ける権利の保障(2) こども基本法、「こどもの貧困」、「こどもの居場所づくり」</p> <p>第8回：教育と教育行政(1) 教育行政の原理と教育委員会制度の理念</p> <p>第9回：教育と教育行政(2) 教育委員会制度（1947年教育基本法10条と2006年教育基本法）</p> <p>第10回：憲法原理と教育行政—教育委員会と学校の関係</p> <p>第11回：現代的課題(1) 学校安全の推進方策—組織的取組の推進、家庭・地域・関係機関等との連携・協働による学校安全の推進、安全に関する教育の充実、安全管理の取組の充実等</p>			

第12回：現代的課題(2) 学校評議員制度と学校運営協議会制度—「地域とともにある学校」への転換

第13回：現代的課題(3) 「学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策」 (中教審答申)

第14回：現代的課題(4) 「地域学校協働活動」及び「コミュニティ・スクール」の事例検討

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

伊藤良高・大津尚志・橋本一雄編『ポケット教育小六法』晃洋書房（最新年度版）。そのほか毎回の参考文献は、適宜PDFにて配布する。

参考書・参考資料等

高妻紳二郎編著『新・教育制度論 [第2版] —教育制度を考える15の論点』ミネルヴァ書房、2023年。坪井由実・渡部昭男編著『地方教育行政法の改定と教育ガバナンス—教育委員会制度のあり方と「共同統治」』三学出版、2015年。横井敏郎編著『教育行政学(第5版)—子ども・若者の未来を拓く—』八千代出版、2024年。中央教育審議会答申ほか適宜授業時に紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業への参加と理解（授業ノートの作成、小レポート提出、発表）：40%、期末試験：60%により総合的に評価する。

授業科目名： 学習・発達論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 工藤 英美
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 幼児、児童及び青年期の心身の発達過程に関する代表的な理論を踏まえ、発達とは何か、また教育における発達理解の意義を理解する。また、各発達段階における運動・言語・認知・社会性など様々な発達過程、及び特徴を理解する。</p> <p>2. 幼児、児童及び生徒の学習のメカニズムを理解し、教育現場にみられる心理的な課題について心理学的及び教育的視点から分析できるようになること、ならびに思春期・青年期それぞれの発達を支えることの重要性を学び、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習過程について基礎的な知識を身につける。また、思春期・青年期それぞれの発達段階の特徴を踏まえ、主体的な学習を支える指導の基礎的な考え方を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達、学習とは何か。発達心理学、教育心理学、学習心理学の対象と目的</p> <p>第2回：発達段階と発達課題 —教育と発達の関連性—</p> <p>第3回：乳児期の発達 身体感覚を伴う多様な世界とのかかわり</p> <p>第4回：幼児期の発達 表象世界の始まりと言語の発達</p> <p>第5回：児童期の発達 —友達関係の広がり和社会性の発達、9、10歳の壁とは—</p> <p>第6回：青年期の発達課題 —「自分」とは何か—</p> <p>第7回：思春期の課題と不登校</p> <p>第8回：学習とは何か 様々な学習①行動主義的な学習</p> <p>第9回：学習とは何か 様々な学習②認知心理学的な学習</p> <p>第10回：学習を支える記憶</p> <p>第11回：やる気とは何か —動機付け—</p> <p>第12回：各発達時期での学習指導の形態</p> <p>第13回：協同学習と集団づくり</p> <p>第14回：いじめと学級集団</p> <p>第15回：教育評価 —子どもを理解し、評価するとは—</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

教科書は使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜指示・配布する。

学生に対する評価

② 筆記試験 (40%)

② 小テスト 1 回 (40%)

③ 毎回授業時にミニレポート課題を課し、授業の理解度を評価 (20%)

授業科目名： 特別ニーズ教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松原勝己
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育の在り方について、基礎的事項を理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、発達、認知、における基礎的な知識を習得し、問題意識を高める。 3. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒における個に応じた教育課程の編成や関係機関との連携の在り方について理解し、個々の適切な支援方法について考察する。 4. 場面緘黙、愛着不形成、外国籍、貧困等などの特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒をも含めたインクルーシブ教育の考え方について理解し、改善策を自ら講じる。 			
<p>授業の概要</p> <p>近年、特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒が激増しており、これらの子ども達に対する適正な支援が求められている。そこで本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説する。またフィールドワーク等の体験学習をはじめ、講義中でのグループディスカッション、ディベート、グループワーク等の演習も行なう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育の現状1 特別支援教育を受ける児童生徒数の推移、特別支援教育の概要、特別支援教育の意義、障害者権利条約と関係法令、合理的配慮、特別支援教育とインクルーシブ教育等について解説する。 【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）</p> <p>第2回：特別支援教育の現状2 学習指導要領、個別の教育支援計画と個別指導計画、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置等について解説する。 【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）</p> <p>第3回：視覚障害児の理解 視覚障害のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基</p>			

準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第4回:聴覚障害児の理解

聴覚障害のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第5回:知的障害児の理解

知的障害のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第6回:肢体不自由児・重複障害児の理解

肢体不自由・重複障害のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第7回:病弱児の理解

身体虚弱のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第8回:発達障害児(LD・ADHD等)の理解

学習障害やADHD等のある(幼児)児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識(定義、状態像、診断基準等)、理解、教育的対応(教育内容、教育方法、留意事項)等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(1H)

第9回：自閉症児の理解

自閉症のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）

第10回：情緒障害児の理解

情緒障害のある幼児、児童及び生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）

第11回：特別支援学校の教育の実際

特別支援学校の教育課程（教科等を合わせた指導、自立活動他）、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）

第12回：特別支援学級の教育の実際

特別支援学級の現状、教育課程の編成（教科等を合わせた指導、自立活動他）、指導の実際等について紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）

第13回：通級による指導及び通常学級における特別支援教育の実際

通級による指導の位置づけ、教育課程の編成（自立活動他）、指導の実際、通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、ユニバーサルデザインの授業作り、校内委員会、研修等についての実際を紹介する。

【課題】配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（1H）

第14回：個々の実態に応じた教材作成1

個々の実態に応じた様々な指導方法等を紹介するとともに、様々な教材教具を紹介する。

【課題】想定した障害児に対する教材教具を考えること。（1H）

第15回：個々の実態に応じた教材作成2

各自が作成した教材教具について意見交換をし、それぞれについての良い点や改善点について指導講評する。

【課題】作成した教材教具について、指導講評等を基に、改善を加えること。（1H）

定期試験

テキスト

授業時にプリント配布をする。

参考書・参考資料等

特別支援教育を学ぶ 岐阜大学教育学部特別支援教育研究会編 ナカニシヤ出版

特別支援学校 教育要領・学習指導要領

特別支援学校学習指導要領解説

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

学生に対する評価

方法：授業毎の振り返り・レポート・筆記試験

項目と割合：授業態度（20%）レポート（30%）筆記試験（50%）の合計（100%）で評価する。

その他：特段の事情がなく、1／3以上欠席した学生には定期テスト受験資格がないものとする。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 聡一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p> <p>【 到達目標 】</p> <p>①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。</p> <p>②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>④自分のカリキュラム（マイ＝カリキュラム）をつくって、この大学で生きる。「教育的信条」を更新する。</p> <p>⑤様々な新しい学校の動きを教育課程論的にとらえる。「学校概要」をつくる。</p> <p>⑥専門（経済・公共・経営・情報・スポーツ等）の学びをマイ＝カリキュラムに活かすようにする。また、地域社会の状況・課題との関連を具体的に考える（社会に開かれた教育課程・地域学校協働）。地域計画をカリキュラムとしてとらえる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アクティブラーニング型の授業を経験する形で進める。テキストを使用し、毎回のレジュメと重要資料を印刷配布して進める。ノートPCを毎回持参して使用する。Microsoft Teamsを活用して、pdf資料の提示（会議の画面共有）、WordやExcel、Powerpointファイルの共有を行う。グループを組んで、グループで課題に取り組んだり、作業の共有をはかる。「Learning by teaching.」の実践をはかり、自分だけでなく、グループやクラスといった所属する集団の学びが促進するような、教師の基本となる経験を意識して進める。学部のICT教育、DX教育との相乗効果をはかる。調べることについては、動画の検索も積極的にはかり、教師になった際の教材研究につながるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のオリエンテーション ノートPCの準備と練習、グループの組み方、教科書の使い方など 教職課程全体の中でのこの授業の位置づけの説明 シラバスの説明</p>			

第2回：「エンジョイ〇〇」から〈マイ＝カリキュラム〉へ 理想と現実をつなぐ経験の総体＝カリキュラム 4つのカリキュラム（マイ＝カリキュラム | 小さなカリキュラム—教育課程—大きなカリキュラム） 教育目標の階層性

第3回：（マイ＝カリキュラム）をつくって交流する SDG s あこがれの人 なかなか作れないわけ

第4回：生徒の「エンジョイ〇〇」もしくはマイ＝カリキュラムを育てるには

第5回：教育課程論的見方 教育課程とは 学校教育目標の意義（子ども・児童の実態の把握）

第6回：教育課程論的見方2 教育課程の構造 領域論（教科・特別活動・「総合的な学習（探究）の時間」など） スコープとシークウェンス

第7回：様々な教育課程を知る 学校概要をつくる 交流する

第8回：『学習指導要領』の課題と教育課程 資質・能力論と地域学校協働

第9回：マイ＝カリキュラムの行きつく先 産業・地域と世代循環 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント メッセナゴヤ 教育振興基本計画

第10回：教育課程をつくろう 生徒

第11回：教育課程をつくろう2 学校教育目標

第12回：教育課程をつくろう3 特徴的な教育活動

第13回：教育課程の基本問題と歴史 問題解決学習と系統主義

第14回：教育課程の基本問題と歴史2 人格と学力 膨張・過密化とのたたかい ヘルバルト学派と教科等横断のカリキュラムマネジメント カリキュラムの類型 学習指導要領の変遷

第15回：教育課程の分析と診断・評価（カリキュラム評価） 「教育的信条」の更新

定期試験

テキスト

・『【総則編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』『【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』文部科学省

・ジョン・デューイ（松野安男訳）『民主主義と教育』上巻、岩波書店

参考書・参考資料等

・吉田武男監修滝沢和彦編著『教育学原論（MINERVAはじめて学ぶ教職1）』ミネルヴァ書房

・参考動画チャンネル 子ども・青年の生活と発達研究室 ほか

学生に対する評価

数回の課題と最後のレポート（教育的信条）による。レポートを100点（100％）とする。すべての課題提出がレポート採点の条件である。

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河合 宣昌
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 『道徳科の特質を生かし、「考え、議論する」授業』 道徳教育及び道徳科の目標を理解し、道徳性を養うために、道徳科の特質や「考え、議論する」をふまえた指導方法や指導・援助を具体的に理解する。			
授業の概要 授業の具体的なイメージをもてるように、模擬授業を常に位置づけ、道徳科の学習指導過程、具体的な指導方法や指導・援助、板書の工夫、評価の在り方等について教員と学生の双方向での授業をすすめる。			
授業計画 第1回：道徳科の本質について 道徳科になったのは、道徳教育及び道徳科の目標について 第2回：道徳科の特質及び「考え、議論する」について 道徳科の内容項目について 第3回：読み物教材を活用して、基本的な学習指導過程について 第4回：模擬授業（講師が学級担任、学生が生徒）で、具体的な指導の手立てやその意味を理解する 第5回：読み物教材を分析して基本発問の工夫について 第6回：価値への方向付けをする導入の工夫及び読み物教材の提示の工夫について 第7回：教材に出合った時の考え方や感じ方を生かす工夫について 人間理解の指導の工夫について 第8回：価値理解における指導の工夫について 「考え、議論する」について 第9回：自己を見つめる指導及び指導・援助について 実践意欲を高める終末の工夫について 第10回：ねらいを明確にした学習活動の工夫について 第11回：模擬授業をする中での構造的な板書について 第12回：学習指導案の作成の手順の理解について 読み物教材を使用して学習指導案を作成 第13回：読み物教材を使用して学習指導案を作成 第14回：道徳教育の全体計画（別業を含めて）及び年間指導計画について 道徳教育の課題（いじめ、情報モラル、教師と生徒の一問一答の授業）について 第15回：道徳科の評価について 定期試験			

テキスト
「知りたいことがきっとわかる道徳教育Q&A」 (日本文教出版) 著者 河合宣昌
参考書・参考資料等
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成29年7月 文部科学省) 授業中に適宜、資料を配付
学生に対する評価
毎回の授業の最後に提出するレポート (100%)

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤岡 恭子、伊藤 嘉人、 松本 訓枝、高橋 利行
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：特別活動及び総合的な学習の時間の目標・内容と教育的意義、指導法と評価</p> <p>授業の到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の目標・内容、意義を理解することができる。 2. 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持ち、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識・素養を身に付ける。 3. 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための指導法と評価に関する知識・技能を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とする特別活動の特質を踏まえた指導法を学ぶ。特別活動の各内容・学校行事において、生徒たちが「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み」「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする」活動や、「地域学校協働活動」における地域住民等との協働活動を通して、個々の生徒が「自己の生き方」を探究する学習過程を考える。</p> <p>「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」の育成をめざす総合的な学習（探究）の時間の指導法と評価の仕方を考える。「探究的な学習の過程」に必要な4つのプロセスを念頭におきながら、具体的な学習過程の構想を考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動の目標と内容、特別活動の特質と教育的意義 (藤岡)</p> <p>第2回：教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方—カリキュラム・マネジメントの視点から①— (藤岡)</p> <p>第3回：特別活動における指導の在り方—合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方— (藤岡)</p> <p>第4回：学級活動・ホームルーム活動（目標・内容、指導上の留意点）—(1)学級や学校の生活づ</p>			

<p>くり、(2) 適応と成長及び健康安全、(3) 学業と進路における、合意形成に向けた話し合い活動と意思決定— (伊藤)</p> <p>第5回：生徒会活動（目標・内容、指導上の留意点）—(1)生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営、(2)学校行事への協力、(3)ボランティア活動などの社会参画— (伊藤)</p> <p>第6回：学校行事（目標・内容、指導上の留意点）—(1)儀式的行事、(2)文化的行事、(3)健康安全・体育的行事、(4)旅行・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事 (伊藤)</p> <p>第7回：特別活動の評価—特別活動の評価の観点、評価の進め方、多様な評価方法 (伊藤)</p> <p>第8回：総合的な学習（探究）の時間の特質と意義—創設の経緯と意義・ねらい、育成する資質・能力、教科等横断的・総合的な学習、探究的な学習— (松本)</p> <p>第9回：総合的な学習（探究）の時間の目標と内容—総合的な学習の時間の目標、各学校における目標・内容の設定と留意点、カリキュラム・マネジメントの視点②— (松本)</p> <p>第10回：総合的な学習（探究）の時間の指導計画—年間指導計画・単元指導計画作成の意義と留意点、主体的・対話的で深い学びの実現、具体例の紹介— (松本)</p> <p>第11回：探究的な学習（探究）における学習指導—探究的な学習の過程、指導上の工夫と留意点— (高橋)</p> <p>第12回：総合的な学習（探究）の時間の評価—評価の方法、留意点と課題— (高橋)</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の実践（中学校）—特質と課題の検討— (高橋)</p> <p>第14回：総合的な探究の時間の実践（高等学校）—特質と課題の検討— (高橋)</p> <p>第15回：まとめ—教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方（「チームとしての学校」の視点と組織的な対応等、「地域学校協働活動」の事例から）— (藤岡)</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編』東山書房、2018年。</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説特別活動編』東京書籍、2019年。</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編』東山書房、2018年。</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編』学校図書、2019年。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業への参加と理解（討論への参加状況、グループ発表、ミニレポート提出）：40%、レポートおよび期末試験：60%により総合的に評価する。</p>

授業科目名： 教育の方法及び技術 (ICT 活用を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳永 俊太 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・ICT（情報通信技術）の活用の意義と理論を理解する。 <p>主体的な学びに繋げるためのICTを活用した授業の知識を身につけ実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科に共通する授業を構想・実践・評価するための方法を、演習を交えながら学習する。 ・ICT（情報通信技術）は、技術革新と共に現状でも様々なものが世の中に出てくる分野の1つである。そのICTを活用した学びを提供できる教員像を考えると同時に、実践できる力ならびに新たなものを受け入れ、試行錯誤しながら教育に活用ができるための技能を身につける。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション ―子どもたちに必要な能力を考える―</p> <p>第2回：学習科学の知見 ―子ども視点で教育を考える―</p> <p>第3回：授業の構成要素 ―授業を分析する力を身につける―</p> <p>第4回：教材研究の手法 ―素材を教材に変える力を身につける―</p> <p>第5回：教育目標と教育評価 ―教育評価による授業改善の方法を身につける―</p> <p>第6回：新しい学びのあり方 ―主体的・対話的で深い学びについて考える―</p> <p>第7回：教育技術 ―教師の専門性について考える―</p> <p>第8回：授業検討会の方法 ―省察の仕方を身につける―</p> <p>第9回：社会におけるICTデバイスと学校におけるICTデバイス ―その役割を考える―</p> <p>第10回：デジタル・シティズンシップと学校教育 ―デジタル世界での振る舞いを考える―</p> <p>第11回：デジタル・デバイスを活用した教育方法 ―デジタルとアナログを使い分ける―</p> <p>第12回：デジタル・デバイスを活用した授業計画 ―こだわりを持って授業を創る―</p> <p>第13回：ICTを活用した授業実践（1） ―授業の構成要素を踏まえて検討する―</p> <p>第14回：ICTを活用した授業実践（2） ―ICTの特徴を踏まえて検討する―</p> <p>第15回：まとめ ―子どもたちに必要な教育を考える―</p>			
<p>テキスト</p> <p>学習指導要領、学習指導要領解説（特に、自分が取得する免許の教科）</p>			

参考書・参考資料等

独立行政法人教職員支援機構（NITS）のHP（<https://www.nits.go.jp/>）

学生に対する評価

評価は、以下の最終レポートをもとに行う。

【最終レポート】第13回、第14回で行う10分程度の授業実践について省察し、その改善案と改善の理由を述べてください。授業実践の巧拙は評価対象にしません。どう省察したのか、どう改善したのか、そこにどのような理由があるのかを評価します。

授業科目名： 生徒指導論(進路指導を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南出吉祥
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「生活のなかで学ぶ」ことの意味を掴めるようにするとともに、子どもたちにとって豊かな経験を育んでいくために必要な環境整備および教師の働きかけについて理解できるようになる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校は「教育の場」であるとともに、「生活の場」でもある。学校生活を通して見えてくる子どもの生活課題に対し、教師を含めた支援者・大人・地域はどういった対応ができるのか。子ども・家庭の生活現実の理解を進めるとともに、学校生活の安定化や進路選択をめぐる課題への実践的な対応を学ぶことにより、子どもの「今・ここ」と「これから」に向き合っていくための土台を形成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程における生徒指導および進路指導・キャリア教育の位置付け</p> <p>第2回：学校の教育活動全体を通じた生徒指導およびキャリア教育の意義や重要性</p> <p>第3回：集団指導・個別指導の方法原理</p> <p>第4回：生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違い</p> <p>第5回：学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組</p> <p>第6回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方</p> <p>第7回：児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方</p> <p>第8回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令</p> <p>第9回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点</p> <p>第10回：インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題</p> <p>第11回：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方</p> <p>第12回：職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメント</p> <p>第13回：主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点</p> <p>第14回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義とポートフォリオの活用について</p> <p>第15回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法</p>			

テキスト なし

参考書・参考資料等

中西新太郎『人が人のなかで生きてゆくこと』はるか書房、2015年

阿比留久美『子どものための居場所論』かもがわ出版、2022年

児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくま新書、2013年

『生徒指導提要』文部科学省 2022年

学生に対する評価

毎回のコメントシートの内容およびレポート課題で評価する

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳広 圭子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業のテーマ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校における教育相談の意義と理論の理解 2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)の理解 3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性の理解 <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 3) 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 4) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 5) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 6) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 7) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 8) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解している。 9) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかけるときに、主として個人の資質や能力の伸長を支援する援助する教育活動である。この授業では、児童生徒の発達段階に即しつつ、個々の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を学び、それを教師として自らの教育実践に活かすことができる力を身につける。</p>			

授業計画

第1回：学校における教育相談の意義と課題

第2回：教育相談の概念

第3回：子どもの発達段階に応じた教育相談

第4回：学校教育におけるカウンセリングマインド

第5回：カウンセリングの基礎的知識や技法

第6回：チーム学校とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー

第7回：医療・福祉・心理等の専門機関との連携・協働

第8回：多様な背景を持つ児童生徒への教育相談

第9回：発達障害の理解と支援

第10回：児童虐待の理解と支援

第11回：いじめの理解と支援

第12回：不登校の理解と支援

第13回：少年非行の理解と支援

第14回：保護者への支援

第15回：ケース検討

テキスト

文部科学省「生徒指導提要」2022年。

参考書・参考資料等

日本学校教育相談学会『学校教育相談—理論と実践のガイドブッカー』ほんの森出版、2025年。

学生に対する評価

授業時間内課題（ワークシート）30%、授業時間外課題（コミュニケーションペーパー）20%、授業に対する参加度10%、最終レポート40%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位	担当教員名：複数教員担当（クラス分け） 藤岡 恭子、加藤 聡一、大坪 健太		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 約10人（3クラスで実施）					
教員の連携・協力体制 3名の教職専任教員がクラスを分けて担当する。授業内容は基本的に同一であるが、扱う題材は異なる可能性がある。学生に関する情報の交換、成績評価の基準など、教員間の連絡は密に行う。					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：教職課程の学修の省察を通して、自己の課題を発見し、今後の実践計画を立てる 1. これまでの教職課程での学修について「履修カルテ」を完成させながら省察し、教師としての能力向上に自律的に取り組む姿勢を身につけることができる。 2. 「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」等の重要性を理解し、自らの課題として考えることができる。 3. 教材研究を積み重ね、「学習指導案」を更新していくことができる。					
授業の概要 1. これまでの教職課程での学修および、教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解することができるようにする。 2. 教員に必要とされる資質能力、知識・技能を補完しながら、生涯にわたって個々が取り組んでいくべき課題を明確にできるようにすることを目的とする。					
授業計画 第1回：オリエンテーション—「教職実践演習」の趣旨、省察の重要性〔履修カルテの確認〕 第2回：これまでの学修を振り返る—「教職課程を通して何を学んだか（教職の意義や教師の役割）」、「教職に向けて何が不十分であるか（知識・技能）」、「これから何を行っていくか」、意見交換。 第3回：教育実習の振り返り（1）—研究授業で作成した「学習指導案」の再検討— ・研究授業後の指導教官等からの講評、自身の振り返りをふまえて、以下の観点から再検討 〔観点〕①学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など） ②適切な場面で情報機器の活用について（→第14回に発表できるよう、教材研究を行い、更新版を作成していく。） 第4回：教育実習の振り返り（2）—教育実習校におけるICT活用事例の紹介、意見交換 第5回：教育実習の振り返り（3）—教育実習校の「学校経営方針」「特色ある教育活動」とそれらを実施するための組織体制について意見交換 第6回：教師に求められる力量とは（1）—社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者や地域の関係者との人間関係の構築など）について— 第7回：教師に求められる資質能力とは（2）—学級経営の方法・学級経営案の作成について—					

<p>第8回：教師に求められる資質能力とは(3) —生徒理解・いじめや不登校への対応について—</p> <p>第9回：教師に求められる資質能力とは(4) —発達障害の理解と学校現場での支援について—</p> <p>第10回：教師に求められる資質能力とは(5) —外国籍生徒に対する指導・支援について—</p> <p>第11回：教師に求められる資質能力とは(6) —多様な背景を持つ児童生徒への指導・支援について—</p> <p>第12回：事例検討 —出身地の「地域学校協働活動」の事例紹介、意見交換</p> <p>第13回：教科指導力を高める(1) —授業のデザイン、ICTの活用、評価の方法について—</p> <p>第14回：教科指導力を高める(2) —再構成した「学習指導案」の発表・合評会</p> <p>第15回：まとめ—最終レポート「教職に向けた抱負」の発表・意見交換。「履修カルテ」完成版の提出。</p>
<p>テキスト</p> <p>・授業内容に応じて、適宜、テキスト・資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・授業内容に応じて、適宜、テキスト・資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>・①毎回の課題への取り組み（ノートまとめ、課題の提出、発表）：40%、②「学習指導案」更新版：20%、③最終レポート：30%、④「履修カルテ」：10%で、総合的に評価する。以下の到達目標の観点について評価を行う。</p> <p>〔到達目標1〕これまでの教職課程での学習について「履修カルテ」を完成させながら省察することができたか。教師としての能力向上に自律的に取り組み姿勢を身につけようとしているか（「履修カルテ」「最終レポート」）。</p> <p>〔到達目標2〕「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」等の重要性を理解し、自らの課題として考えることができたか（ノートまとめ、最終レポート）。</p> <p>〔到達目標3〕教職研究を積み重ね、「学習指導案」を更新していくことができたか（「学習指導案」更新版）。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。